

LION



IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP JUNE 2011

6

東日本大震災 被災地支援

いま出来ること



ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

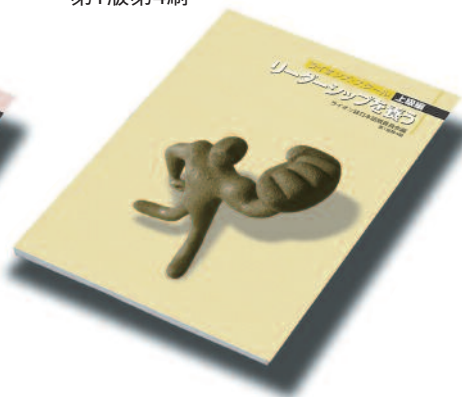
●初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第2刷



●中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷



●上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷



入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

国際協会の総合的リーダーシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。

●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスをお願いします。

※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jpあてにご注文ください。

※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。

<https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2>

※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物 注文書

●ライオンズクラブ入門 ☐ 部
●クラブ運営の基礎知識 ☐ 部
●リーダーシップを養う ☐ 部

●ウィ・サーブ ☐ 部
●ライオニズムよ永遠に ☐ 部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 ☐ 部

| | | |
|--------------------|------|-------------------|
| 地区名 33 - | クラブ名 | お名前（クラブで注文の場合は不要） |
| ご住所 〒 - | | お電話番号 |



4 国際会長メッセージ ● 「自動操縦を解除して新たな高みへ」

5 **THEME** ● 東日本大震災 いま出来ること

東北地方沿岸を襲ったマグニチュード9.0の大地震と、日々の営みをすべてのみ込んだ巨大津波の被害が明らかになると、全国のクラブは、自分たちに何が出来来るかを考え、動き出した。

6：330～337複合地区／8：333-C地区／10：岩手県水沢／12：茨城県水戸葵／14：330-A地区／15：青森県弘前東奥／16：千葉県大網白里／17：福井県鯖江王山／18：332-E地区／18：334-B地区／19：東京江戸川／19：宮城県大衡エコー／20：山形県天童舞鶴／20：茨城県常陸小川／21：愛知県新城／21：富山県上市

23 国際理事だより ● 不老安正

24 **LIONS NEWS CASSETTE**

24：2016年国際大会はアジアの交流拠点都市、福岡市で開催／25：東日本大震災関連／25：ニューヨーク岩手県人会が被災地への義援金を332-B地区に託す／26：ライオンズクラブ国際協会第94回国際大会公示／26：国際第2副会長候補者／27：2011年国際大会公式通達／28：会議録

29 GMT通信 ● 後藤隆一

30 PICK UP ● 小さな町の元気なクラブ

34 **CLUB REPORT**

34：沖縄県石川／36：山形県寒河江／36：福井県ふくいピュア／37：広島県上下／37：栃木県佐野／38：静岡県沼津中央／38：宮崎オーシャン／39：岩手県久慈／39：大分県中津／40：330-C地区第2部第1分／40：東京ワンハンドレッド／41：岡山県倉敷ローズ／41：兵庫県尼崎／42：大阪東住吉平野／42：岡山県倉敷西／43：大分中央／43：大阪府八尾中央

41 獅子吼

41：「とにかく何かをしなくては」 茅島純一／42：「緊急物資支援とネットワーク」小野木巧／43：「ライオンの心と心をつなぐリレー」実籾富二男／44：「LCIFへの感謝とお願い」新井康彦

49 **ふるさと探訪** ● 長崎県平戸市

54 READERS ROOM

54：海外からのメッセージ／ライオン誌例会のススメ
55：もう一度読みたい「あの記事」 ● 「損して徳をとれ」

56 EDITORS ROOM

56：読者プレゼント／次号予告
57：編集室 ● 「『絆』で日本再生を」小田邦雄

58 日本ライオンズクラブ 分布図



本誌は環境に配慮したFSC™認証紙を使用しています。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

自動操縦を解除して新たな高みへ

さまざまな利点を持つ自動操縦装置は便利なものかもしれませんが、パイロットに誤った安心感を抱かせる恐れもあります。それが働いていれば、見ているだけで済むからです。長距離を飛行する民間航空機では、高度と進路を保つという物理的必要性を自動操縦装置がある程度満たしてくれるため、パイロットの負担は軽減されます。問題は進路や高度を変える場合で、その時にはパイロットが操縦桿を握らなければなりません。さもないと、飛行機はそれまで通りの飛行を続けていくことになるでしょう。

自動操縦装置を使いすぎると別の問題も生じます。それは、パイロットが飛行の「感覚」を失ってしまうことであり、そうなれば基本的な技術を発揮することも出来ません。

多くのライオンズクラブでも、同じことが起きているのではないのでしょうか。というのは、クラブが長年「自動操縦」で動いているように見えるからです。私たちは、直ちにこのような状態から脱却しなければなりません！ 責任を引き受け、進路を変更して奉仕へと立ち返るべき時が来ています。今こそ地域社会のニーズを見直し、奉仕の強化に向けて新会員を招請し、近隣社会のために新クラブを結成させ、ライオンズとしての喜びを取り戻す必要があるのです。

私はパイロットを務めていた時、半年ごとに再訓練を受けていました。ライオンズも会員の診断を行うべきです。あまりにも長く自動操縦に頼り続けていたために、奉仕の成果が自らの潜在能力を下回ることがあってはなりません。国際協会が提供する新たなツール「クラブ向上プロセス（CEP）」は、個々のクラブを診断する優れた手段となるでしょう。

世界中のライオンズが4月、環境への奉仕に集中的に取り組みました。これで最後のグローバル奉仕事業が終了したわけですが、これからも希望の光であり続けるため、共に前進を続けましょう。



2010-11年度国際会長
シド・L・スクラッグス三世



THEME

いま出来ること

東日本
大震災

東北地方沿岸を襲ったマグニチュード9.0の大地震と、日々の営みをすべてのみ込んだ巨大津波の被害が明らかになると、全国のクラブは、自分たちに何が出来かを考え、動き出した。募金活動に、救援物資の輸送に、そして被災者への炊き出しに、と力を尽くしたライオンズの活動を追う。



■ 八複合地区+TASUKIプロジェクト

まごころの詰まった バッグを被災地へ

「大切なもだちにささやかなプレゼントを！」

NPO阪神淡路大震災「1・17希望の灯り」(HANDS/堀内正美代表)のTASUKIプロジェクトが集めた贈り物が、4月13日に福島県猪苗代町に避難している人たちに手渡された。

このプロジェクトは被災地にいる自分と同じ性別、年齢、サイズの「ともだち」へ、衣服や生活雑貨、更にこんなものがあつたらうれしいはず、便利だろうと思う品々をバッグに詰めて贈ろうというもの。バッグには送り主の手紙が添えられ、ただ支援物資というだけでなく一つひとつが心の込められたプレゼントになっている。

全国から集まった「TASUKIバ

ッグ」の第一陣は、3月下旬に岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市などに届けられたが、その後国内だけでなくドイツなど海外からも予想を上回る大量のバッグが寄せられている。そこでHANDSは、被災地への輸送と配布のパートナーとしてライオンズクラブに協力を求めた。堀内代表は阪神大震災後の支援活動でもライオンズと協力した経験があり、「ライオンズの行動力を目の当たりにした」と言う。協力の要請は、八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議の下で物資輸送の調整を担うサポートチーム(330複合地区)





猪苗代町にある332・D地区の物資集積所に到着したTASUKIバッグは13日午前、避難所になっている猪苗代町総合体育館で、山口一男地区ガバナ1始め地区内の会員約30人、桜井330複合地区議長らサポートチーム5人、HANDSの堀内代表とメンバーらの手で配布された。猪苗代町には双葉町町民で福島県内の避難所にいた人たちが約250人が集団移転しているのを始め、福島第一原子力発電所周辺から避難した人たちが生活。現在、避難所に身を寄せる人は50人程で、ほとんどは緊急的な避難所となったホテルや旅館に滞

を通じて議長連絡会議に寄せられ、コラボレーションが実現。バッグの送り主からHANDSへつながれたタスキをライオンズが受け取り、被災した人たちに届けることになった。

4月12日、兵庫県神戸市で行われた出発式には増田十郎同連絡会議世話人（337複合地区議長）、桜井孝一330複合地区議長と、森本克幸335・A地区ガバナ1ら神戸の会員たちが出席。ボランティアらと共にトラックへの積み込み作業を行い、約7千個のバッグを332・B地区（岩手県）、332・C地区（宮城県）、332・D地区（福島県）の物資集積所に向けて送り出した。



在している。そのため332・D地区は各施設を通じてバスで避難所に集まってもらおうよう手配した。

TASUKIバッグの表側には「男児／130㎝」「女性／38歳／M」などと明記され、希望に合ったものを選べるようになっていた。浪江町から避難している女性は、小学2年生の息子のためにバッグを受け取った。

「（避難指示を受けて）会社の制服のまま小学校に子どもを迎えに行き避難したので、何も持っていかなかったんです。今日は息子の靴下やノートを買いに行くつもりでしたが、ちょうど入っていてよかった」

バッグを肩に掛けた男の子は、「お菓子が入っていてうれしい」

双葉町から避難している女性は、「9月に出産を控えているので、マタニティー用のバッグがあって助かりました」

と話していた。

この日はバッグ配布の他にも、330・A地区（東京）第532第2の会員たちが焼きそばや豚汁、フランクフルトなどを振る舞った。避難されている人たちは避難場所を転々としてきた人が多く、久しぶりに知り合いと顔を合わせて肩を抱き合って喜ぶ姿も見られた。

（取材／河村智子）

333・C地区（千葉県）

釜石市の高校生を対象 に就職支援相談会

333・C地区女性支援対策本部（本部長・長澤千鶴子第2副地区ガバナー）のメンバーが、4月10日、岩手県釜石市を訪問し、東日本震災の影響で、



就職の内定取り消しや入社延期の通知を受けたり、決まっていた進学をあきらめ就職を考えている高校生らと面談。一人ひとりの事情をじっくり聞きながら相談に乗る「就職支援相談会」を実施した。

333・C地区の女性支援対策本部は、女性特有の問題を抱える被災地の女性たちを支援していこうと、長澤第2副地区ガバナーの提案で3月28日に立ち上げられた。女性クラブを中心に構成され、女性の立場で被災者支援に取り組むことを目的としている。

その第一段階として、女性用下着、肌着、生理用品、粉ミルク、紙おむつ、おしりふき、哺乳瓶などの支援物資を、地区内クラブの協力を求め集めた。更に同地区の大網白里ライオンズクラブが、





岩手県・釜石ライオンズクラブと太いパイプを持ち、被災地の直接支援を行えることから、支援先を釜石市と決め行動を開始した。

4月9日の16時に柏市を出発した訪問団には長澤第2副地区ガバナーを始め柏なの花ライオンズクラブ、船橋さんかライオンズクラブの女性会員5人が参加。また金井一夫第1副地区ガバナーと松本宰史地区IT・ALERT委員長も同行し、支援物資の配布と共に被災地の状況を視察し、釜石ライオンズクラブ員からも被災者のニーズを聞いた。



忙しい執務の合間をぬって駆け付け、厳しい現状を説明する釜石市長

その後、一行は釜石市災害対策本部が置かれているシーブライザ釜石で、就職支援相談会に臨み、高校生らの相談を受けた。このうち長澤第2副地区ガバナーが担当した岩間亜弥さんは、東京の専門学校への進学が決まっていたが、今回の津波で自宅が住めない状態になってしまった。妹はこの春から高校に入学、女手一つでがんばっている母の負担を考え、自分の進学をあきらめ就職することに決めたという。が、被災地で仕事を探すあてもなく困っている時、この相談会が開かれ参加した。長澤第2副地区ガバナーは亜弥さんと共にお母さんからも話を聞き、親子3人で暮らせるよう手を尽くしてみるから、と岩間さん親子を激励していた。

今回は2、3人に希望に合った形の企業を紹介出来るかもしれないとの話が出るなど、明るい兆しも見え、長澤第2副地区ガバナーは「大変な状況だと思いますが、皆さん希望を持ってがんばってください。これから千葉に帰って、私たちも最大限の努力をします」と話し、これを機に対象となる方たちを継続的に支援することを約束した。

(取材／鈴木秀晃)

岩手県・水沢ライオンズクラブ

宮城県南三陸町で岩手、秋田、千葉のライオンズ混成部隊が活動



4月24日、岩手県・水沢ライオンズクラブ（高橋幸司会長／56人）は宮城県南三陸町の介護老人保健施設ハイム・メアーズに避難している同町の人たちのために、お汁粉、ぜんざい、アイスクリームの提供を行った。同時に、婦人用化粧水や衣料、ウェットティッシュなどをフリーマーケットのように並べ、好きな物を選んで持ち帰ってもらった。

同クラブは332・B地区（岩手県）の被災地支援態勢の中では大船渡市と陸前高田市をサポートする地域に入っており、3月28日には陸前高田の被災者64人をメンバーが経営する温泉施設に無料招待。入浴後は温かいつみれ汁を食べてもらったり、ドクター・ライオ





ンによる健康診断、理髪店の協力を得た散髪などを行った。また、帰りには必要なものを買うよう、奥州市内のスーパーに立ち寄るなどの配慮もし非常に喜ばれた。更に陸前高田にはクラブから、大船渡にはキャビネットからの支援物資を搬入。これまで両市に対し、さまざまなサポートを続けてきた。その一環として炊き出し奉仕の準備を整え、両市に避難所の紹介を依頼していたが、受け入れ態勢が整わないまま、日にちだけがたってしまった。そこで、被災地への支援に県境はないと、宮城県南三陸町で候補地を探したところ、

水沢中央ライオンズクラブの森山孝一が関係するハイム・メアーズを紹介され、この日の実施となった。炊き出しには会員11人の他、約30人の奥州市民も参加。会員を乗せたマイクバスと市民ボランティアを乗せた大型バス、更に機材や食料、支援物資を積んだトラックの3台で、南三陸へ向かった。また、前日に岩手県大槌町に野菜や洗濯機、自転車などを搬入した千葉県・松戸ユウカリライオンズクラブの高橋昌男と同一・野田ライオンズクラブの高木次雄が、帰り道にもうひと踏ん張りとして、焼き芋の炊き出しで飛び入



り参加。子どもたちや女性陣を大喜びさせた。更に宮城県への支援物資搬入を計画していた田中寿一332・F地区ガバナーから、避難所の選定を依頼されていた高橋義太郎元332複合地区議長（藤沢岩手ライオンズクラブ）が、千葉龍二郎332・B地区第2副地区ガバナーから、水沢ライオンズクラブが南三陸町で炊き出しをすることを聞き、ハイム・メアーズに田中ガバナーらを案内。332・F地区は洗顔セット600組を選び、二つの避難所に300組ずつを寄贈した。

（取材／鈴木秀晃）



茨城県・水戸葵ライオンズクラブ

5日間で延べ5千食の炊き出しを実施





茨城県・水戸葵ライオンズクラブ（今井文彰会長／61人）は4月11日から15日まで、岩手県大槌町の避難所9カ所で、夕食の炊き出しを行った。この間、参加したメンバーたちは自衛隊の駐屯地にもなっている、大槌町小槌のふれあい運動公園をベースキャンプに、キャンピングカーなどで寝泊まりしながら奉仕を続けた。

大槌町には4月10日現在、36カ所の避難所があり、約2200人の被災者が暮らしていた。また、避難所での生活にストレスを感じる被災者の中には、ライフラインが復旧していなくても自宅の方がいいと、浸水を免れた2階で寝起きをし、食事の度に避難所へ取りに行く人が4300人ほどいた。そのため夕食の炊き出しは毎日場所を変えながら千食ずつ実施した。



場所9カ所や水の確保、ベースキャンプの場所などを調べた。その後、水戸市内でホテルやレストランを経営する斎藤が、食材や炊き出し機材を調達。それをトラック2台に積み込み、被災地での宿泊用にキャンピングカーを借りて現地に入った。今回の活動には斎藤、園部、若林純也の3人を中心に、斎藤の会社の社員3人が常駐。それに食材調達に協力してくれた斎藤の友人や、今井会長を始めとしたクラブ・メンバーが交代で駆け付けた。

ご飯は当初の予定通り千食を炊き、これにいつでも食べてもらえるよう、少し多めに1500食分のカレーを作り、温泉卵と共に配った。5日間で提供した食事はカレー7500食、ご飯5千食、温泉卵5千個に上った。

（取材／鈴木秀晃）

330・A地区（東京都）

数次にわたり被災地に支援物資搬入

4月14日、330・A地区（東京都／河合悦子地区ガバナー）の支援物資を積んだトラックが岩手県盛岡市に入った。トラックは河合ガバナーが所属する東京みやこライオンズクラブの田口秀明が運転、河合ガバナー自らもその助手席に乗り込み、7時間半を掛けての

岩手入りだった。

同地区では既に3月14日と25日にそれぞれ支援物資の搬送をしており、3回目となる今回は物資の他、義援金も携え、ガバナー自らが被災地に入るようになった。同地区は東北地方太平洋沖地震が発生した3月11日、今年度最大のイベントとして難病対策支援のための「フォーラム&チャリティー・コンサート」を実施していた。が、地震によりイベントは中止。出演者アグネス・チャンさんからは出演料の全額寄付の申し入れがあり、更に関係各所の了承を得て、イベントの収益金の70%を義援金に振り替えた。

盛岡市で332・B地区（岩手県）の原文忠地区ガバナーと会談し、被災状況や被災地のニーズ、支援の方向性などを聞いた河合ガバナーは、翌15日、釜石道の東和インターチェンジで大石誠第1副地区ガバナーと共に駆け付け、てきた幹事団と合流。高橋晴彦332・B

地区第1副地区

ガバナー及び次期キャビネット幹事予定者の高橋寛の先導で、釜石市、大槌町、山田町を回り、それぞれ地元のライオンズクラブの協力で物資を搬入。また、釜石市長や山田町長らとも会談し、被災状況について説明を受けた。

「実際に被災地に入って、ガバナーや首長とお話しし、必ずしもニーズに合った支援物資が届いているわけではないことも聞きしました。被災地と支援する側のタイムラグがその原因の一つであることも分かりましたので、今



後、そういった情報をしっかりと交換しながら、被災地の迷惑にならないような支援をしていきたいと思っています」

岩手への支援物資搬入を終えた河合ガバナーはそう語り、次の搬入先である宮城県と福島県に向け、再び車を走らせた。

（取材／鈴木秀晃）

青森県・弘前東奥ライオンズクラブ

ジャンボかに汁とおにぎり 800食を振る舞う

青森県・弘前東奥ライオンズクラブ（谷川政人会長／54人）は4月21日、岩手県山田町の保健センター前で炊き出しを行い、弘前名物のかに汁とおにぎりを800食ずつ山田町の人たちに振る舞った。

かに汁は桜の名所・弘前の花見に欠かせない津軽地方定番の季節食。陸奥湾から直送したとげぐりかにを使うもので、普通のかによりみそが多く、味



が濃厚なため、非常においしい出汁となる。この日は三陸地方特有のやませが吹き、寒い1日となったが、体の中から温まるかに汁の炊き出しと、温かいまま配られたおにぎりに、山田町の人たちは心からうれしそうだった。

今回、山田町の人たちばかりか、支援に当たっている自衛隊や医療チームなどが注目したのが、かに汁を煮た大鍋。実はこれ、23日から始まる弘前さくらまつりのために、弘前市旅館ホテル組合が作ったもので、19日に出来上がってきたばかり。それが、本番のさくらまつり前に、被災地でデビューを飾ることになった。

当日は鍋班7人が4時に弘前を発ち、9時から鍋の仕込みにかかった。一方のおにぎり班10人は夜中の2時から1200個のおにぎりを作り上げ、12時の配食に間に合うよう6時に出発。陸中山田ライオンズクラブからも多くの会員が出動し、町民と触れ合いながら、炊き出し奉仕を手伝った。また、このアクティビティには、弘前東奥ライオンズクラブと姉妹提携をしている台湾の圓山ライオンズクラブが、支援金40万円を協賛してくれ、食料費などに充てた。

弘前東奥ライオンズクラブは今年度、14人の新会員を迎え、若手も増えたことから被災地に入っ

て支援活動を行う機運が盛り上がった。そこで同じ地区の其田桂332複合地区議長に相談したところ、相原文忠



千葉県・大網白里ライオンズクラブ

クラブのつながりから釜石を 継続支援中

大網白里ライオンズクラブは4月10日、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県釜石市に、野菜などの支援物資を搬入した。同クラブは3月21日に軽油や寝具、衣類、食料品などの緊急支援物資を持って釜石に駆け付けて以来、今回で5回目の釜石入りとなった。

大網白里ライオンズクラブは2002年の大阪国際大会で釜石ライオンズクラブと偶然に知り合い、すっかり意気投合。以来、お互いの周年行事などで交流をしていた。そうした縁から、今回の震災で大きな被害を受けた釜石ライオンズクラブのために何かをしたいと、支援物

資の搬入を決めた。第1回の支援活動では、被災した釜石のライオンズ会員も10人ほど駆け付け、一緒に荷下ろし作業を行った。

その後、25日には第2弾として自転車や仮設風呂、ボイラーの他、キャベツ800個を始めとした野菜を積み込んで、釜石市民体育館に搬入。釜石ライオンズクラブ会員と共に、市内各避難所に支援物資を配布した。更に、この活動に共鳴した船橋さざんかライオンズクラブの仲介により、JAいちかわ船橋地区青年部が農産物の提供を申し出てくれ、27日には第3弾としてブロッコリー、ねぎ、小松菜、だいこんなど大量の野菜類と、冷蔵庫3台、洗濯機1台を、釜石市民体育館に搬送。そこから釜石ライオンズクラブ会員の手で避難所へ配布された。

第4弾となった3月31日分からは更に支援の輪が広がり、3月28日に333・C地区（千葉県）の女性クラブを中心に立ち上げられた「女性支援対策本部」が物資集めに協力。また、釜石ライオンズクラブの呼び掛けにより、釜石青年会議所の会員が配布に加わり、支援物資が届きにくい小さな避難所も含め市内39カ所の避難所に物資を搬入した。

今回の第5弾には333・C地区から金井一夫第1副地区ガバナー、長澤千鶴



子第2副地区ガバナーと共に女性支援対策本部のメンバーらも参加。避難所への支援物資配布を行うと共に、就職の内定が取り消されたり、入社延期の通知を受けた高校生らの相談に乗った。一連の支援で中心となって活動をしている大網白里ライオンズクラブの角河博文は、

「釜石ライオンズクラブとのつながりで始まった支援活動ですが、続けるうちに輪が広がり、また被災地の方たちが必要としているものを知り、支援物資が来ればと考えています」

と、話していた。（取材／鈴木秀晃）



避難生活のストレス軽減を

■福井県・鯖江王山ライオンズクラブ



避難所で生活する人たちのストレスを軽減しようと、鯖江王山ライオンズクラブ（中村均会長／57人）は福島県田村市の避難所に間仕切り用段ボールシート250セット（約千人分）を届けた。田村市は福島第1原発事故の周辺地域からの避難者を受け入れ、最も多い時



で市内10カ所に8500人が避難していた。避難所の状況をテレビ報道で知った同クラブはインターネットで避難先地域のクラブを探し、田村ライオンズクラブ（田中孝敏会長／35人）のホームページを見つけて支援を申し出た。
3月20日、鯖江王山ライオンズクラブ

の会員6人が、間仕切り用段ボール、使い捨てカイロ、紙おむつ、マジックとスケッチブック（子どもの落書き用）、老眼鏡などの支援物資を積み込んだトラックで田村市に到着。田村ライオンズクラブ会員と協力して、避難所になっている「デンスー東日本工場」に運び入れた。

「災害発生後の迅速な行動を、当クラブ会員一同、見習わなければならないと感じました」（田村ライオンズクラブの田中会長）

間仕切り用段ボールの組み立てと設置は、26日に田村ライオンズクラブ会員によって行われた。

この避難所は60m×150mと広く、避難指示区域の大熊町の住民を中心に980人が避難している。食事面では自衛隊の炊き出し部隊も来ており足りているものの、原発沈黙化の見通しがつかないことが、重苦しくのしかかる。避難生活も10日を過ぎ、人々の表情には疲労が色濃く表れていた。

「朝晩の冷え込みが厳しいので風除けがほしい」「子どものプレージンが



ほしい」といった被災者の要望に応えようと心を砕いての作業となった。

出来上がったプレージンでは早速ボランティアの女性と一緒に遊ぶ子どもたちの姿があった。

「鯖江王山ライオンズクラブ」とプリントされた間仕切りは、4月21日に田村市の避難所を訪問して被災者と言葉を交わす菅直人首相を撮影した報道写真に収められ、翌日の主要全国紙に掲載。ライオンズクラブの支援活動を広く知らせることもなった。

332・E地区第5期第2期(山形県)

がんばろう、東北!

「助けてほしい」

3月17日、有賀敏弘元332・E地区ガバナリーの元に、地震発生後連絡が取れず安否を気遣っていた、同期の米谷春夫元332・B地区ガバナリーからの一報が入った。米谷自身多くのものを失いながらも、地域の人々を助けようと東奔西走していた。

18日、有賀は第5期第2期内8クラブの会長、ゾーン・チェアパーソンらに呼び掛けた。するとわずか1日で米1ト、毛布400枚、水道水ベツ

ボトル500本、衣料品約2千枚、食料品、医薬品等が集まった。地元食品会社に、翌日被災地を訪問する旨を告げ、おにぎり550個を注文すると、残業をして作り届けてくれた。

20日未明、4ト、2トの保冷車と、1トラック計3台が、米谷と多くの被災者の待つ岩手県大船渡市へ向けて出発した。

避難所で、550個のおにぎりは到着を待ちかねたかのようにすぐに分配された。多くの高校生や地元ボランティアがテキパキと作業をこなしていた。「被災地に行くことで、人間の『生きる力』は皆で支え合い、抱き合い、守り合うことなのだ」と実感しました(有賀)

実は有賀の地元・山形県の鶴岡地区でもガソリンや食料品は不足、仕事は休止、明日の生活が保障されない人も少なくない中での支援活動だった。

現地入りした8人は高台に上り町の惨憺たる状況を見た。合掌し、「がんばろう、東北!」と声を大にして叫び、大船渡を後にした。

334・B地区(岐阜県・三重県)

アラート支援・災害ネットワーク

334・B地区では地区内外で災害が発生した際に一刻も早い救援活動を行うために、ライオンクラブズ・ネットワーク(愛称「334Bネット」という組織を設けている。この度の東日本大震災においてもその行動は迅速だった。

地震発生後、第1弾の支援活動は3月16日。茨城県日立市への給水支援。

第2弾は3月21日。福島県相馬市の災害対策本部の救援物資支援要請による避難所での支援物資配布。

第3弾は3月31日、宮城県亘理郡山元町対策本部の要請による物資搬入。

被災により機能出来ない現地からの要請を受け、334・B地区全体に物資提供を呼び掛ける。一両日ほどで集まった荷物を分別し積み込み被災地へ。第3弾までに提供された物資は約900万円相当に及んだ。

31日の山元町では、地元・山元ライオンズが迎え、町体育文化センター支援物資集積場で荷下ろしをした。場内では各家族が順番に物資を受け取った。宮部一弘334・B地区アクティビティ委員長は、

「幼子のうれしそうな笑顔が印象的でした。短期間に多くの物資支援が出来たことは真のウィ・サーブの精神の表れだと自負します。そして今後も支援の継続が重要です」と語る。

後日、山元ライオンズからお礼のメールが届けられた。震災から40日を経過し、精神的にもだいぶ落ち着き人々の顔に明るさが戻ってきた、町内の動きも少し活発になった、とあった。避難所近くの桜の老木は満開だった。



■東京江戸川ライオンズクラブ

善意の乗り合いバスのように

東京江戸川ライオンズクラブ（井村壽会長／44人）は地震発生後、数日たった3月15日から、自動車整備販売業を営む坂本潤之輔を中心に、被災地への物資搬送を重ねている。

最初に宮城県名取市行きを決めたのが13日。地区内クラブ等に物資の拠出を求めると、24時間で2ト車1台分の粉ミルクやおむつ、衣類等が集められ、ガソリン、軽油も購入し14日夜に東京を出発した。

24、25日には衣類や野菜などを積み、



岩手県陸前高田市に向かった。津波で壊滅的な被害を受けた街だ。訪ねた避難所の一つ、月山神社では、「日の出から活動して、日が暮れたら眠る。雑魚寝のスペースは一人1畳弱、プライバシーは全くなく、修学旅行みたいだ！」と、被災者は笑って話したという。下着やタオルは黒がいい。汚れても気にならないから、とも。ギリギリの局面でユーモアがにじむような言葉には、かえって半端な同情を挟む余地がない。

4月5日には仙台と福島県新地町へ。届けた東京の小学校から提供された中古のランドセルには、靴下や手袋、子どもが小遣いで買ったと思われる菓子などと一緒の手紙が入っていた。放射能汚染された土壌の浄化に効果があると言われている「東京発 勇気と希望の花・ひまわり」の種も手渡した。

これ以外にも同クラブは何度もトラックを走らせた。支援物資を託した他クラブも多い。個人、町内会、学校、NPOなど協力者も幅広い。まだまだ運ぶ善意は尽きない。

■宮城県・大衡エコーライオンズクラブ

希望の光を絶やさないで

「津波被害被災者のうめき声が聞こえますか。家族を失った方たち、あなたのお子さん、お孫さんと同じ年頃の子どもたちが、希望の光を待ち続けています」

大衡エコーライオンズクラブ（高橋恭諄会長／14人）の柳丑田陸男は訴える。同クラブの活動域でもライフラインが寸断され、近隣村民の救助・確認に奔走する中、柳丑田は災害支援物資輸送の誘導役を依頼され、3月20日から南三陸と気仙沼、石巻、七ヶ浜方面への支援物資輸送を開始した。

被災地では人々はいまだ茫然自失の状態で、困窮の極みで声を上げることすら出来ずにいた。

支援物資を手渡せば、「もったいない。有難うございます」。要望を聞けば、「わがままは言えません。贅沢は言えません」と泣くばかり。炊き出しに被災児童が集まってきた。

「おじさん、これ食べてもいいんですか？」と聞かれて、私は、『遅くなってゴメン』と子どもたちの頭をなで、涙をこらえきれなかった（柳丑田）



海に転がったファミリー・レストランの車から出ていたものを食べて生き延び、腹をこわしている震災孤児。ヘドロをかき分け、家族を探し続ける人たち。

「役場が機能せず、目をそむけたくないような場面がメディアで報道されていない」と柳丑田。

地域によつては震災発生から1カ月以上たつてもこの状態が続いているという。今すぐに、一人でも多くの支援の手が求められている。

山形県・天童舞鶴ライオンズクラブ

塩釜で芋煮の炊き出し支援

「クラブ菜園で収穫した芋煮の材料があるから、炊き出し支援にいかないか」「いつ行く?」

「今から行こう!」

3月15日、天童舞鶴ライオンズクラブ（細矢俊博会長／44人）は姉妹クラブである宮城県・利府ライオンズクラブ（鈴木俊一元会長）行きを急ぎよ決定した。5人が二つ返事で名乗りを上げ、同行出来ない会員からも続々と物資が届いた。米1俵、おにぎり、漬け物、あじまん（大判焼き）、クリームパン、リ

ンゴ、缶飲料、水、テント、薪等々を軽トラックとバンの2台に積み込んで出発した。

炊き出しは塩釜市内にある鈴木会長夫人のお店の店先を借りて実施。当日準備ということで、芋煮が出来上がったのが18時近くになったが、あつという間に百数十食分がなくなった。温かい汁物は現地では何よりのサプライズ・プレゼントだったろう。

3月18日の地区統一支援物資搬送の際は、天童舞鶴ライオンズクラブ事務所は第3部の集積所となり、多くの荷物を送り出した。同時に天童市内にも増えてきた、避難所に暮らす人々への支援も行う。

岩手県・藤沢岩手ライオンズクラブを通じて支援要請もあった。クラブのホームページを活用してクラブ内外に緊急支援物資の提供を呼び掛け、4月8日にそれらを発送した。

軽やかなフットワーク、かねてから各地の災害時には支援を重ねてきた実績ある行動力で、天童舞鶴ライオンズクラブは今日も奉仕を続けている。



茨城県・常陸小川ライオンズクラブ

被災地宮城に茨城の安全なとれたて野菜を

茨城県では原発事故の風評被害により、問題のない野菜までもが出荷制限を余儀なくされている農家が少なくない。一方、被災地での食事は新鮮な野菜が不足している。

それならば県内の安全な野菜を購入し被災地に届けることで、双方の支援になるのではないかと考えた高濱正敏333・E地区ガバナーは、野菜産地を活動域に持つ常陸小川ライオンズクラブ（久保田雄候会長／31人）へ、宮城県・石巻への野菜輸送のミッションを下した。

これを受け同クラブは、メンバーが組合長を務める常陸小川農協と全農茨城県本部の協力で、県内各地から新鮮な野菜10品目5千ケース、大型トラック3台分を調達。ピーマン、キュウリ、トマト、レタス、ネギ、ニラ……。もちろん全部検査済み、安全が確認されているものばかりだ。

3月31日夜、車体に「がんばれ宮城・333・E地区ライオンズクラブ 茨城」のステッカーを貼ったトラックが、常陸小川農協の営業ステーションを出

発した。翌4月1日朝、石巻市総合運動公園に無事到着。

田畑英伍332・C地区ガバナーあての支援の品は、地元のア部浩第4部の第2ゾーン・チエアパーソンが立ち会い引き取られた。

新鮮な野菜がやっと、ライオンズ・メンバーと自衛隊の応援により、被災者に配布され、食卓に並んだ。厳しい避難生活に不可欠なビタミン、ミネラル、そして愛のエールがぎゅっしりつまっている。



■愛知県・新城ライオンズクラブ

サポート部会「東日本大震災救援隊」

新城ライオンズクラブ（坂部敬介会長／

69人）にはクラブ内有志から成るボランティアグループ「サポート部会」が存在する。そのメンバーには大工や電気、水道、土建業、食料品店など各方面の専門家も多く、高齢者を対象とした屋根の修理や庭の草刈りといった地域活動、また、水害や地震などの大災害があればすぐさま被災地に向かうと、3月22～26日に掛けて市民から

など幅広い活動を繰り広げている。

東日本大震災でも被災地を支援しようと、3月22～26日に掛けて市民から



広く物資を募集。紙おむつ1800枚、

菌ブランチ2400本などの日用品、下着を含む衣服2千着、飲料水、大量の野菜などが集まった。

3月31日の未明、炊き出し用の食材や機材などを2トトラック2台とワゴン車1台に積み込み、8人が新城市を出発した。

翌4月1日朝に石巻市に到着。まず救援物資を市立住吉中学校と、北上中学校に搬入。その後、住吉中学校で2日間にわたり炊き出しを行った。

1日目の昼はうどん600食、夜はカレーライス350食、2日目の朝は味噌汁350食、昼に豚汁600食を振る舞った。すべてを終えて8人が新城に戻ったのは3日の午前3時30分だった。

同クラブではこれに先立ち、地震発生から間もない3月20日に開催したチャーター・ナイト50周年記念式典で、祝宴を自粛しその費用を義援金に充てている。周年記念チャリティー麻雀大会や囲碁大会の益金を含め、150万円に上った。

■富山県・上市ライオンズクラブ

灯油満載のタンクローリーが走る

未曾有の地震・津波災害に遭遇した被災地の様子をテレビ画面が映し出す。ガソリンスタンド経営者の若井上誠治は矢も楯もたまず行動を開始した。

まず営業用3タンクローリーに満杯の灯油（ドラム缶15本分）を確保。上市ライオンズクラブ（佐々木照之会長／29人）で330複合地区のサポートチームに照会すると、現地では小分けポリ容器での調達を希望しているという。会員からの供出と購入した容器を積み、小雨降る3月25日の夕刻7時、会員の見送りを受けて出発した。

灯油は指示された3県、3カ所へ千リツずつ搬入した。まず福島県猪苗代町の体験交流館・学びいな。北上して東北自動車道宮城県域・大和サービスエリアでタンクローリーに。最終目的地の岩手県陸前高田市災害対策本部・陸前高田市給食センター。また、指定外では介護センターへ日用雑貨品と20リットルポリ容器を届けた。

「車を走らせながら、恐怖と寒さに耐え忍んでおられる被災者を思うと気持ち急いだ。陸前高田の惨状は特に筆

舌に尽くし難く、ただ涙が止まらなかった」と若井上。

福島県では高速道路走行に際し、担当者の配慮で支援活動通行許可書が即刻交付され、陸前高田市では対策本部職員の礼節ある姿勢に深く感動したという。昼夜を通して2泊3日、延べ1400キロを走り続け27日午後11時帰着した。

「救援活動にわずかも携わり、得難い体験をさせてもらったことを深く感謝します」



2011年3月11日(金)に発生しました
東日本大震災により

尊い犠牲となられました方々に対し
謹んで哀悼の誠を捧げ
衷心よりご冥福をお祈り申し上げます
被災された皆様方へ
心よりお見舞い申し上げます

いざ!! 復興
ライオンズは応援します

333複合地区

ガバナー協議会議長 小野 忠博
ガバナー協議会顧問 加藤 弘明
事務局管理委員長 藤森 篤
〒110-0015 東京都台東区東上野2-18-7
第1桑原ビル4F

333-A地区

地区ガバナー 佐藤 和正
キャビネット幹事 田村 利一
キャビネット会計 大嶋喜久雄
〒955-0092 新潟県三条市須頃1-17
県央地場産業センター3F

333-B地区

地区ガバナー 植村 茂敏
キャビネット幹事 磯 治男
キャビネット会計 速見 誠
〒320-0063 栃木県宇都宮市陽西町1-37

333-C地区

地区ガバナー 竹下 徳永
キャビネット幹事 加島 正男
キャビネット会計 星野 鴻一
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-2
千葉県中小企業会館2F

333-D地区

地区ガバナー 川崎 弘
キャビネット幹事 吉岡 慧治
キャビネット会計 小保方廣幸
〒371-0026 群馬県前橋市大手町2-16-8
ホリビル大手町1F

333-E地区

地区ガバナー 高濱 正敏
キャビネット幹事 川上 光彦
キャビネット会計 柴田 延洋
〒317-0073 茨城県日立市幸町2-1-10
(株)金馬車本社ビル3F

国際理事 だより



■国際理事
不老安正
(福岡県・太宰府)

この度の国際理事会はシド・L・スクラッグス国際会長の出身地であるノースカロライナ州で行われました。主会場のザ・アムステッド・ホテル&スバは新緑と松の緑に囲まれた石造りのホテルでした。森には州花である白いハナミズキが満開で、緑と白のコントラストがすばらしい景観でした。

4月15日に開催されたLCIF執行委員会では、東日本大震災に対する支援が協議され、被災者への特別財政支援プログラムに100万ドル、被災地ライオンズ運営センターの設置を補助する目的で50万ドルの拠出が承認されました。この委員会の時点で、東日本大震災支援のLCIF災害指定献金の合計は877万ドル(誓約と日本からの300万ドルを含む)に上ったという報告でした。なお、この指定献金はMJFの対象となりますが、献金会員の対象とはならないことを確認しました。今理事会に提出されたLCIF交付金申請は68件290万ドルで、日本から申請された14件35万ドルはすべて承認されています。

理事会中、各国の理事から東日本大震災

ノースカロライナ州カリー国際理事会報告

へのお見舞いと、支援に最大限取り組みとの約束を頂きました。特にデンマークからは50万¹クロ(約800万円)が日本の対策本部に送金されており、同国のクリスチャンセン国際理事にお礼を申しましたところ、「日本はこれまでに世界の多くの国々を助けてくれた。今度は我々がお返しする時だ」と言われ、私はその温かい友情に感激で目頭が熱くなりました。

16日から3日間にわたり八つの委員会が開かれました。私と山浦晟暉国際理事はまず財務委員会に出向き、332複合地区内で被災した37クラブに対する、2011・12年度分国際会費の免除をお願いしました。協議の結果、上半期の免除を受け入れて頂き、下半期についても次年度秋季国際理事会で承認頂けることになりました。次に地区・クラブ・サービス部では、国際協会への報告書提出の1年間免除を認めて頂きました。

大会委員会では2016年国際大会候補地の選考が行われました。査定の結果、入札のあった6都市の中からまず選ばれたのは、アメリカ・オハイオ州シンシナティ、

ユタ州ソルトレークシティ、そして福岡市の3都市です。私は福岡市が残ったことに一瞬安心しましたが、国際会長と大会委員長から、審議会では日本の原子力発電所事故について意見が出されると思うので現状をよく説明するように、とアドバイス頂きました。しかし審議会では原発事故についての質問はありませんでした。

最終会議の21日朝、国際会長の指名で私が祈禱を行いました。その後国際大会開催地選挙に入り、最初の投票でシンシナティと福岡市が残り、決選投票で福岡市に決定しました。2年間、日本開催に向けがんばってきた努力が報われ喜びに浸っています。理事会会期中にOSCAL地域の理事で協議し、今年11月に上位ライオンズ・リーダーシップ研究会を福岡市で、来年3月の講師育成研究会はフィリピン・マニラで開催することが決まりました。

今回の理事会では日本のライオンズが提案した案件はすべて決議されました。国際会長から親善大使章を授与され、私にとっ

NEWS CASSETTE



PHOTO : Fumio Hashimoto

写真提供：福岡市

2016年国際大会はアジアの交流 拠点都市、福岡市で開催

4月16日から21日にアメリカ・ノースカロライナ州カリーで開催された国際理事会で、2016年国際大会の開催地が福岡市に決定した。日本での国際大会開催は、東京（1969年、78年）大阪（02年）に続き4回目となる。理事会から帰国した不老安正国際理事は25日、高島宗一郎福岡市長に開催地決定を報告し、共に記者会見に臨んだ。福岡国際大会は



16年6月24日～28日の日程で、ベイエリア（中央埠頭地区）のコンベンション・ゾーン（福岡国際会議場など4施設）、と3回の総会が開かれる福岡ヤフドームを主要会場に開催、インターナショナル・パレードは、福岡市民の祭り博多どんたくで「どんたく広場」となる明治通りが予定されている。

今後の国際大会開催地は以下の通り。

12年…韓国・釜山／6月22日～26日
13年…ドイツ・ハンブルク／7月5日～9日
14年…カナダ・オンタリオ州トロント／7月4日～8日
15年…アメリカ・ハワイ州ホノルル／6月26日～30日
16年…日本・福岡／6月24日～28日
17年…アメリカ・イリノイ州シカゴ／6月30日～7月4日

東日本大震災関連

東日本大震災で被災した地域では、多数のライオンズクラブ、会員が被害を受けた。震災により死亡あるいは行方不明の会員は、332・B地区（岩手県）で21人、332・C地区（宮城県）では9人。元国際役員（千葉宏一・2009・10年度332・C地区ガバナー、金野亨・1997・98年度332・B地区ガバナー）が亡くなった（332複合地区調べ）。

4月の春季国際理事会では、東日本大震災への対応が協議された。今理事会には332・B、332・C両地区の計37クラブの被災が報告され、これら特定被災



犠牲者への追悼と復興の願いを込めて、岩手県・陸中宮古ライオンズクラブが夢灯り宮古漁火協議会と共に企画し、4月11日に行われた「大津波でんでんこ・がんばろう宮古夢灯（あかり）」（4月12日付岩手日報）

クラブに対する2011・12年度上半期の会費免除（下半期分は秋季理事会で承認）、1年間の報告義務免除が決定した。今回免除が決まったクラブの他にも、332・D地区（福島県）内の原子力発電所事故による避難で被害を受けたクラブを含め、今後、運営困難と確認されたクラブについては、国際理事を介した本部への報告に基づいて、免除の承認が行われる。

また同理事会において、LCIFは総額150万ドルの指定プログラムを決定。100万ドルが震災被災者の特別財政支援に、50万ドルがライオンズ運営センターに使用される。

ニューヨーク岩手県人会が被災地への義援金を332・B地区に託す

4月22日、アメリカのニューヨーク岩手県人会（岩崎雄亮会長／60人）から、幹事の藤島誠さんと、赤間幸子さんが来日。盛岡市の332・B地区キャビネット事務局を訪問し、岩手の被災者支援に役立ててほしいと、県人会としての義援金3万ドルを相原文忠地区ガバナーに手渡した。ニューヨーク岩手県人会には岩手出身者や、岩手にゆかりのある人たちが入会している。今回の津波被害を知り、海外にも応援している人間がいることを知ってもらうことで、少しでも岩手の人たちを勇気づけられればと、義援金を持って日本に駆けつけることにした。県人会では義援金を預ける先をどこにするか議論を重ね、最も確実に被災地に早く支援を届けてくれることを第一義に考えると、ライオンズクラブがいちばんいいとの結論に達したという。日本のライオンズへの橋渡



し役は、県人会の岩崎会長が所属するニューヨーク・ジャパニーズ・アメリカンライオンズクラブで、直接332・B地区キャビネット事務局に連絡が入り、今回の訪問が実現した。義援金には、ニューヨーク・ジャパニーズ・アメリカンライオンズクラブが実施し、県人会も協力したニューヨークでの募金活動で得られたものも入っており、相原ガバナーは被災者の役に立つよう、直接、ライオンズが支援活動を行うことを約束した。また、この日は新聞2社、テレビ4社が取材に入り、夕方のニュースや翌日の新聞で紹介された。

ライオンズクラブ国際協会 第94回国際大会 公示

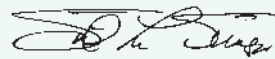
国際付則第6条第2項に則り、ここに2011年国際大会の公式通達を致します。第94回国際大会は、アメリカ・ワシントン州シアトルで開催されます。大会は、7月4日午前8時半に開会し、7月8日に閉会します。本大会の目的は、国際会長、第1副会長、第2副会長並びに17人の国際理事の選出、及び本大会前に正規の手続きを経て提出されたその他事項の処理にあります。

シアトルは旅先として申し分ない都市であることが、今年の大会参加者にお分かり頂けるでしょう。アメリカ北西部に位置し「エメラルド・シティー」として知られるシアトルには数多くの一流レストランがあり、さまざまな観光名所の宝庫です。

国際大会は思い出に残るにぎやかなイベントです。大会は色彩豊かなインターナショナル・パレードで始まり、その日の夜はさまざまな文化を織り交ぜたすばらしいインターナショナル・ショーが催されます。大会開催期間中、ライオンズは多種多様のセミナーに出席することが出来ます。初日の総会では、ライオンズが「希望の光」として光り輝いた奉仕の1年についてお話をさせて頂くことになります。大会は、コンドリヤー・ライス前アメリカ国務長官の講演、その後に続く2011-12年度国際会長及び地区ガバナーの就任式をもって金曜日に閉会します。

19複合地区のライオンズが大会参加者を歓迎し、参加者にとってシアトル滞在が楽しいものとなり、本大会がこれまでで最高の大会の一つとなるように尽くしてくれるでしょう。ぜひともこの特別なライオンズ行事に振るってご参加ください。

2011年5月10日
アメリカ・イリノイ州
オークブルックにて



ライオンズクラブ国際協会
国際会長
シド・L・スクラッグス三世



国際第2副会長候補者

国際第2副会長候補者は8人。選挙は7月8日、ワシントン州シアトルでの国際大会で実施。



ジョン・A・ネーナン インングランド・アールスコルの
オライオンズクラブチャーター・
国際理事。82年から会員で、89年
サウス・ウッドハム・フェラー
ズライオンズクラブチャーター・

メンバー。株式仲買人、会社重役。06年ヨーロッパ・フォーラム委員長。七つの慈善信託を管理し、業界、市民・地域の組織で活躍。01年MBE叙勲。ステイブ・シェラー アメリカ・オハイオ州ニューフィラデルフィアのシェラー元国際理事は公認



ジョン・J・パーマー
プ・アワードなど国際的
市民の表彰を受けた他、
バリー・J・パーマー 2000-02年国際理事を



務めた。オーストラリア・ニューサウス
ウエールズ州ベローラ在住。
76年からホーンズビーライオンズ
クラブ会員で、クラブ、地区、複合地区、国際レベル
で数々の役職を務めてきた。不動産会社社長で、オ
ーストラリア政府からの勲章、小児がん研究のアワ



ヤグエス在住のDr.フステイニ
アノは79年からライオンズ会員
で、93-95年に国際理事を務め
た。マヤグエスライオンズクラブ

ードを受ける。シドニー・オリンピックのボランティアで活躍。国際協会からも数回表彰を受けている。
Dr.カルロス・E・フステイニ アノ プエルトリコ・マ

会員。矯正歯科医で、フステイ・コーポレーション
最高財務責任者。多くの業界、市民、地域の団体で活
躍し、多数の表彰を受けている。中南米・カリブ・
フォーラムでディスカッション・リーダーを務めた。
Dr.ハロルド・R・オットー アメリカ・ペンシルベ
ニア州ボールドバークのDr.オットーは、07年の第90
回国際大会で国際理事に選出。元大学管理職で、80

公式通達

2011年国際大会（アメリカ・ワシントン州シアトル）

以下の国際付則改正案が2011年国際大会において提出され、代議員の票決を受けます。
本改正案の可決には過半数の賛成投票が必要です。

第1項：国際会費を2012-2013年度より2年間かけて段階的に増額すると共に、会費に関する条文を簡略化する決議案。少額の会費増額を段階的に行うことで、協会は既存のプログラムやサービスを通して間断なく会員へのサービス提供を継続しつつ、今後の新たな取り組みに投資することができる。国際理事会は、全会一致で下記の決議案の可決を提言している。

下記の決議案を承認すべきか？

2012年7月1日より、国際付則第12条2項の既存の文言を全文削除し、以下と差し替える。

第2項 会費。

(a) 半期分国際会費として米ドルによる20ドル50¢（US\$20.50）が、6月と12月の会員報告書に示される各クラブの会員数に基づいてクラブの各会員に課され、各クラブは国際理事会が定める通りにこれを国際本部に支払うものとする。ただし、本項(b)及び(c)に規定される場合を除く。

(b) 国際理事会が承認した家族会員プログラムに対しては、下記の会費が適用される。

(1) 家族員1人目の会員は、上記の(a)で規定される金額を半期分国際会費として支払う。

(2) 有資格の家族員2人目以降の会員（1世帯につき、有資格者を4人まで追加可能）は、上記(b)(1)で規定される家族員1人目の会員が支払う合計額の2分の1に相当する金額を半期分国際会費として支払う。

(c) 国際理事会が承認した学生会員プログラムにおいて、その適用対象となる学生会員は、上記(a)で規定される会費合計額の2分の1に相当する金額を半期分国際会費として支払う。

(d) ライオンズクラブは、スポンサーしている各レオクラブにつき、国際理事会が定める額による年間納入金を、国際理事会が定める時期に支払わなければならない。

さらに、2013年7月1日より国際付則第12条第2項(a)を改正し、同項内の「20ドル50¢（US\$20.50）」との語句を削除し、「21ドル50¢（US\$21.50）」との語句に差し替える。

第2項：地区ガバナー、第一副地区ガバナー、及び第二副地区ガバナーの任務を改訂し、グローバル会員増強チーム及びグローバル指導力育成チームに関する責任を含むものとする決議案。

下記の決議案を承認すべきか？

国際付則第10条第2項(a)(2)及び第2項(a)(3)の既存の文言を全文削除し、以下と差し替える。

(2) 地区レベルのグローバル会員増強チームを監督すると共に、他の地区役員に対し、会員増強及びクラブ結成を積極的に支援するよう働きかける。

(3) 地区レベルのグローバル指導力育成チームを監督すると共に、他の地区役員に対し、クラブ及び地区レベルにおける指導力育成を積極的に支援するよう働きかける。

さらに、国際付則第10条第2項(b)(2)の既存の文言を全文削除し、以下と差し替える。

(2) 地区ガバナー・チームにおけるグローバル会員増強チームとの主要連絡役を務め、地区における会員増強、新クラブ結成、ならびに既存クラブの成功を図る積極的役割を担う。

さらに、国際付則第10条第2項(b)に以下の文言を新たな第2項(b)(3)として加え、残る条文の番号を適宜変更する。

(3) 地区ガバナー、第二副地区ガバナー、及びグローバル指導力育成チームと協力し、地区全体の指導力育成計画を策定及び実施する。

さらに、国際付則第10条第2項(c)(2)及び第2項(c)(3)の既存の文言を全文削除し、以下の文言と差し替える。

(2) 地区ガバナー・チームにおけるグローバル指導力育成チームとの主要連絡役を務め、効果的な指導力育成の実施及び促進において、自ら積極的に参加すると同時に他の地区役員に働きかける。

(3) 地区ガバナー、第一副地区ガバナー、及びグローバル会員増強チームと協力し、地区全体の会員増強計画を策定及び実施する。

さらに、国際付則第10条第2項(c)に以下の文言を新たな第2項(c)(4)として加え、残る条文の番号を適宜変更する。

(4) 地区ガバナーから割り当てられる任務を果たす。



年からハリス・タウンシップ
ライオンズクラブ会員。業界、地
域の組織で活躍し、ライオン
ズ・リーダーシップ・フォーラム

のディスカッション・リーダー、地区ガバナー・エ
レクト・セミナーのグループ・リーダーを務める。



G・ラマスワミー ラマスワミー元国際理事はイン
ド・コインバトール在住で、
85年にアヌール・タウンライ
オンズクラブ入会。96～98年国際
理事で、900人以上の新メン

バーをスポンサーしたことで認められている。99・
00年度、05・06、06・07年度の国際理事会アポイン
ティーを務めた。オライマスワミーは実業家で数々の
業界、市民、地域の表彰を受けている。



ハリ・アラ・クルジュ 77年からフィンランドのエ
スボー・ケスクスタライオンズ
クラブ会員。クルジュ元国際理事
は保険会社社長で、多くの地域
組織で活躍。01年の第84回国際

大会で国際理事に選出された。フィンランドのスカ
ンジナビア赤い羽根キャンペーンのキャンペーン・
マネージャーや北欧協議会の委員長を務めた。



サリム・ムサン レバノン・ベイルートのムサン元
国際理事は、97年の第80回国際
大会で国際理事に選出された。
貿易会社を所有し、多くの業界、
地域組織に貢献。三つの国際大

会でプレゼンターを務め、第23回南アジア・アフリ
カ・中東ライオンズ・リーダーシップ・フォーラム

の委員長を務めた。レバノンのライオンズ眼科セン
ター創設者。

会議録

緊急複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（3月

13日／帝国ホテル／出席者…桜井孝一、武久一郎、
増田十郎各議長、不老安正、山浦晟暉両国際理事）

①LCIFの援助金②災害被災者への支援③その他

第9回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（3月

21日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者…桜井孝
一、古谷野環、其田桂、小野忠博、堀田和之、辻吉
治、武久一郎、増田十郎各議長、不老安正、山浦晟
暉両国際理事）

①前回会議要録の確認②国際理事からの最新情報③

3月13日緊急議長会報告…「東日本大震災」支援対策
本部の設置④「全日本会員増強アワード」審査⑤合同
事務所設置及び移転関係⑥各複合地区からの提案

（332、335複合）⑦複合地区ITウェブ会議テストの
実施⑧「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」に対
する後援名義の使用許可⑨各種会議・委員会報告関
連⑩その他

第9回ライオン誌日本語版委員会（4月11日／ライ

オン誌日本語版事務所／出席者…秋山詔樹、後藤忍、
種市一二、林静誠、砂田繁雄、竹本實生、小田邦雄、
澁田繁晴各委員、小野忠博議長、莊英隆ITアドバ
イザー）

①東日本大震災関係②ライオン誌日本語版事務所の
運営③4月号（3月22日見本／10万6千部発行）出
来④5月号記事内容の確認⑤6月号以降台割（案）と

主要記事予定⑥その他

新結成／クラブ名称変更

■新結成クラブ

千葉県・市川フロンティアローズシニア（山本安正会
長）▼4月2日結成▼スポンサー／市川パインツリー

■クラブ名称変更

奈良県・田原本→大和磯城

訃報

■元国際役員

オライマスワミー（宮城県・気仙沼）

3月11日死去、67歳。2009・10年度332・C地
区ガバナー、今年度ライオン誌日本語版事務所会計
監査委員。

オライ小川明人（長野県・茅野）

4月22日死去、76歳。94年度334複合地区ガバナー
協議会議長、334・E地区ガバナー。

■献眼者

3月11日オライ小川保徳（長野県・上田）／オライ細波克雄（長
崎県・深江布津）

●5月号掲載の「八複合地区ガバナー協議会議長連
絡会議 会員増強アワード受賞者」に左記3クラブ
の記載もれました。

(B)1クラブで10人以上の会員純増

【333複合地区】群馬県・渋川／子持／前橋東



GMTリーダー会則地域(東洋・東南アジア)リーダー

後藤隆一

強力なリーダーシップの下で前進を

GMT(グローバル会員増強チーム)は08年度に少なくとも3年間継続する中長期会員増強プログラムとして発足。今年度末で一つの区切りを迎え、次年度からはGMTと指導力育成に専門的に取り組むGLT(グローバル指導力育成チーム)の2チーム態勢で協会の発展を担うことになる。

GMTは、ちょうど3年前、2008・09年度の国際会長となるアル・ブランドル国際第1副会長(当時)の強力なリーダーシップの下に、それまでの毎年名称も内容も変わるものから、中長期会員増強プログラムへと変革を遂げ発足したものです。私自身も、当初から担当委員の一人として組織や予算の策定に加わり、今日まで国際チームの一員として当該プログラムの推移にかかわらせて頂いてきました。

既報の通り、シアトル国際大会を経て新年度が開始されるに際し、従来のMERLプログラムは発展的に解消され、今後継続されるGMTと新設なGLTがライオンズクラブ発展とライオニズム高揚の重要な責を担うことになります。

GMTは準地区レベルにおいても会員維持増強の軸をなす位置付けとなり、国内各準地区の次期組織構想にても、既に周知の通りでありましようが、GMT地区コーディネーターを中心に地区ガバナー・チームと関連委員会(長)の協働組織が会員増強・エクステンション/会員維持(クラブサクセス)に関する実践的クラブ活性化の責任を負います。

国際チームが何度会議を重ねても、幾多のアイデアや道具類を開発しても、地区レベルのチームが有効に活動しなければ地区内クラブの充実と強化の向上にはつながりません。地区ガバナーの正しい理解と強力なリーダーシップの下に、所轄のGMT地区チーム・メンバー各位の是非なる活躍が期待されるところです。

世界のライオンズ会員動静が数年前から増加基調にあることはご存じの通りです。ライオンズ大国の中では、日本とアメリカの2国が引き続き減少を示していることも同様に周知のことです。実は、本年2月末までの統計により日本の会員減少に底打ちの気配が認められ、期末への幾分かの期待も観察されていました。

しかし、3月11日以降、不安定な世情の推移は、常態を取り戻すに至るまでの道程の長さとその困難さを示しています。ライオンズクラブにあっても、被災地区であるなしかかわらず、次年度キャビネットは復興キャビネットとしての色彩を帯びるのはやむを得ないことかもしれません。

東北の復興と日本の復興へ向けて、そして間違っても奉仕の拠点を減らすことが無いように、被災地域のライオンズとライオンズクラブ復興のためにも、各地区ガバナーを先頭に国内全地区キャビネットにおいてその英知を集め、高い意識と情熱をもって歩を進めることが肝要でありましよう。

大震災の発生直後から、ライオンズクラブの広範な人的ネットワークを駆使して、東北内外の多くの同志が被災地支援活動を展開してきました。ライオンズであることに感謝し感謝され、ライオンズとしての誇りを再認識している仲間が多く存在します。

しっかりと前を向き、日本ライオンズ10万8千が団結して正しく力強く、そして知的に前進することが、復興とライオンズの強固な輪の広がりにつながることを願う次第です。

町民55人に1人がライオンズ。
北海道黒松内町ってどんな町？

人口は3205人の北海道黒松内町で活動する黒松内ライオンズ（小谷孝夫会長）の会員数は58人で、単純に計算すれば、全町民の55人に1人がライオンズ会員。本誌の調べでは、全国の市町村の中で、人口に占めるライオンズ会員の割合が最も高いのがこの黒松内町だった。今年度、結成17年目を迎えた同クラブは地区ガバナーを輩出し、町にはキャビネット事務局が置かれている。いったいどんな町？ どんなクラブなのか？ 興味しんしんで黒松内町へと向かった。

（取材／河村智子）

町の大切な財産は
ブナ原生林

黒松内町を訪れたのは3月の初め。長く厳しかった寒さがようやく緩み、春の気配が感じられる季節。それでもまだ1日に上下線合わせて14本の列車が止まる黒松内駅は、すっぽりと深い雪に覆われていた。

黒松内町は、北海道から本州に向かって伸びる渡島半島のちょうど付け根の辺りに位置している。町をはさんで、日本海側の寿都町から噴火湾に面する長万部町に至る「黒松内低地帯」は、ブナの北限の地。黒松内町にある歌才ブナ林は、昭和3年に国の天然記念物に指定されている。明治時代に入植が始まって以降、北の大地を覆っていた原生林は農地開墾のために次々に伐採されていった。黒松内に残ったブナ林は、その後も戦時中には飛行機のプロペラに、戦後は学校建設のためにと、度々伐採の危機に遭ったが、その度に町民たちによって守られてきた。

黒松内町は20年前から、貴重な財産である自然環境を生かした「ブナ北限の里づくり」を進めている。20年前と言えば、町おこしの名の下に各地にテーマパーク型の大規模施設が次々と建





てられた頃だ。しかし町はブナを中心に、基幹産業の酪農など地域の特徴を生かした地道な活動を進め、その拠点となる施設を充実させてきた。ブナ林を守り、都市部との交流に生かそうという体験学習型の情報センターや宿泊施設、ハムや乳製品などの特産品を作る加工センター。手作りパンや町自慢の品々を集める道の駅「トワ・ヴェールⅡ」は道内の道の駅の中でも屈指の人気だという。豊かな自然と、決して派手さはないが温もりのある町の魅力にひかれて、都会から移住する人も増えている。

黒松内町のもう一つの顔は「福祉の町」だ。町内にある福祉施設は、養護老人ホーム、児童養護施設、知的障害



歌才森林公園に隣接する
自然体験学習宿泊施設、歌才自然の家

者施設、身体障害者療養施設など9施設。これらの施設の利用者は約700人で、道内だけでなく関東地方からの入所者もいる。施設で働くスタッフは450人余り。利用者、スタッフとその家族といった施設関係者で、町の人口の3分の1を占める。町に最初に来たのは児童養護施設で、1956年に設立。その後、高齢者、障害者向けの施設が次々に開設されていた半世紀の間に、共に暮らし支え合う「福祉の町」が確立されてきた。

「うちの町はある意味で特殊な地域かもしれません。例えば都会の路上で、知的障害のある人とすれ違う時、あからさまに体で避けなくてもどこか避ける意識が働くと思います。でもうちの町ではそれが無い。『奉仕』と意識しないままに当たり前のこととして支援が行われてきました」

と、黒松内ライオンズクラブのチャーター・メンバー、茂尾実331・C地区ガバナーは言う。商工会や婦人会など町内のグループは日常的に福祉施設への支援を行っているし、町内の企業は障害者の雇用に積極的だ。町には現在、五つのグループホームがあり、障害者施設を出た25人が共に生活しながら地元企業で働いている。町内会の旅行にも一緒に参加しているという。

今年度331-C地区キャビネット事務局には、町営施設の空室を安価で借りている。「運営委員長（彩花田）、事務局長（彩小谷）にはご苦勞を掛けていますが、ローカル・キャビネットの黒松内モデルというものを確立出来たのではないかと思います」と茂尾ガバナー



「福祉の町」のライオンズクラブ

黒松内ライオンズクラブが結成されたのは17年前のことだが、町にはそれ以前から奉仕の精神がしっかり根付いていて、それがライオンズクラブの素地になっていた。

ライオンズクラブが急速に全国に広

がっていった1960年から70年代の初め、黒松内町と同じ寿都郡の寿都町、隣接する虻田郡の倶知安町、洞爺湖町、喜茂別町、豊浦町、ニセコ町には次々とクラブが結成されたが、その波は黒松内町には届かなかった。小樽中央ライオンズクラブのスポンサーで黒松内ライオンズクラブが結成されたのは94年3月。町で初めての国際的な奉仕組織は会員

58人で発足した。

チャーター・メンバーの一人で、黒松内町前町長の彩谷口徹は言う。

「クラブの根幹となったのは、強いリーダーシップです。初代会長が奉仕についてしっかりとビジョンを持っていたから、他のメンバーがそれにひかれていったところがあります。それに会員は皆さん何とかして地域をよくしたいという思いが強く、町づくりに貢献している人の多くがライオンズの会員です」

クラブ結成に強いリーダーシップを発揮して初代会長を務めた彩廣瀬清藏は、「福祉の町」に先鞭をつけた社会福祉法人の理事長だ。「ライオンズの奉仕の精神と福祉とは通じるものがある」と、彩廣瀬は町内にある施設の幹部職員にも入会を勧めた。

「施設には町の皆さんから温かい支援を頂いていましたから、少しでも恩返しが出来ればと入会しました」

と話すのは、当時は高齢者福祉施設の施設長だった彩花田忠雄。彩花田は退職した後もクラブに留まり、今年度はキャビネット運営委員長として茂尾ガバナーを支えている。

結成されたクラブには町長を筆頭に助役、教育長ら行政関係者、経営者、銀行の支店長、学校長、福祉施設の施



黒松内ライオンズクラブは黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会に参加し、苗畑の種子まきや除草などを行っている。その他にも、ルール違反ゴミの分別（写真下）や交通安全キャンペーン、献血などのアクティビティを実施。高齢者施設の訪問ではカラオケにあて振りする「シバオケ」をメンバーが熱演する。今年度はインターネットを通じた呼び掛けに応え、町民の協力を得てタイ山岳民族に防寒衣料を送る活動にも取り組んだ



設長など、いわゆる町の名士が顔をそろえた。

「私が町に来て7年ですが、当初は町の主だった会合の顔ぶれはライオンズが多いという印象でした。それは今も変わっていません」

と小谷会長は話す。

しかし結成当初、茂尾ガバナは5年もたてば会員が半減するのではないかと危惧していたという。結成時の熱が収まり、リーダーの神通力が弱まって退会が相次ぐと考えたのだ。幸いなことに予想は外れ、これまで

多少の増減はありつつも50人を超える会員数を維持してきた。その要因は、身の丈にあったクラブ運営だと、茂尾ガバナは言う。

「羽谷口が現職町長の時、よく『身の丈にあった』ということ言われていました。振り返ってみると、黒松内ライオンズクラブの活動も身の丈にあったんです。ライオンズの中にも競い合いがあって、他のクラブに負けたくない、うちはもっと大きなアクティビティを、行事をやりたい、というところが見られます。それが会員の負担になってしまふ」（茂尾ガバナ）

「町の政策でも、ライオンズでも、派手なことは出来ないけれども、一つひとつ地味なことを積み上げていけば、ブレることなく安定した活動が続けられます」（羽谷口）

変化に挑戦するクラブの姿勢

今回の取材に当たって、黒松内ライオンズには会員を維持し、クラブを元気にする、何か特別な秘訣があるのではないかと考えた。その一つには、福祉に対する意識の高さという町そのものの特性があった。しかし、「秘訣」と呼べるようなものは、会員の皆さんの話を伺っても、なかなか見えてこな

かった。強力なリーダーシップ、町の名士の集まり、堅実な運営というキーワードは他の多くのクラブにも共通するもので、どちらかと言えばオーソドックスなクラブ像をイメージさせるものだった。しかし、黒松内ライオンズクラブには更にもう一つ、大きな特徴があった。積極的に変化を受け入れようという姿勢だ。

2007年に国際協会が家族会員プログラムをスタートさせると、クラブはすぐにこれを取り入れ、現在は15人の家族会員（子会員）が在籍している。この取材で話を伺った茂尾地区ガバナ始め4人の会員は、全員が家族会員（世帯主会員）だったし、現町長の若見雅明も夫婦そろってライオンズの会員だ。

クラブが現在取り組んでいるのが、クラブ支部の発足だ。

「サラーマンを中心とした会員構成の支部結成に向けて準備中です。一般の人たちのライオンズに対する見方を変えるようなクラブ支部を目指しています」（茂尾ガバナ）

クラブ支部はいずれ単独クラブとして独立させることを、今から視野に入れていると言う。黒松内町民に占めるライオンズの割合は、これからもっと上がっていきそうだ。

沖縄県・石川ライオンズクラブ
サイクル・パトロール隊結成から始まった快進撃



石川ライオンズクラブ（伊波明正会長）は沖縄本島中部のうるま市にあり、今年結成40年を迎える。337・D地区の識名安信第1副地区ガバナー（沖縄県・八重山ライオンズクラブ）によると「今、沖縄でいちばん元気なクラブ」だそうだが、今でこそ会員数36人を擁しているが、一時はその半分の18人まで落ち込んだ。それが一転、上昇に転じ、「元気なクラブ」に生まれ変わったのは、あるサイクル活動がきっかけだった。それは2007年暮れに結成したサイクルリング同好会だった。当時の新垣暉文会長が「会員を増やすために、出来ることから始めよう」と、楽しいクラブライフの一環として同好会活動を提唱し誕生したものだ。

最初は健康管理を目的にした、ごく普通のサークルだった。が、サイクルリングの途中で、夜遊びをする少年らをよく見掛けるようになり、リーダーの髙古堅宗次郎が、中学生の深夜徘徊をなくすためのパトロールを提案。これ



にサイクルのメンバーが乗って、08年5月、サイクル・パトロール隊として週3回、活動することになった。やがて、この話が警察まで届き、石川署から正式に防犯と交通安全を目的としたパトロール隊としての委嘱を受けることに。以後、道路など危険個所のチェックや違法駐車の情報なども併

せて実施。そうした活動を通して地域との連携も深まり、また認知度もアップ。会員増強にも効果が現れてきた。

これで勢いに乗った石川ライオンズクラブは地域一丸となって、市内を流れる石川川の清掃を行うことを企画。これには市民約80人が参加してくれ、地域との距離が更に接近した。

そして、ここで間髪入れずに取り組んだのがサンゴの再生事業。市名「うるま」が、沖縄の言葉で「サンゴ（ウル）の島（マ）」を意味するように、自分たちが子どもだった頃の自然を取り戻し、それを今の、そして未来の子どもたちに残そうと企画。会員自らが海に潜り、サンゴの移植活動を行っている。

サイクル・パトロールやサンゴ再生などのアクティビティで完全復活を遂げ、「沖縄でいちばん元気なクラブ」と言われるまでになった石川ライオンズクラブ。やはり基本は「ウィ・サーブ」なのだということを、改めて実感させてもらった。

（取材／鈴木泰晃）

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

クラブ・リポート



福井県・ふくいピュア ライオンズクラブ
養護施設にミュージカルを出前講演



1月、タイガーマスクの主人公・伊達直人を名乗る方などから、たくさんのランドセル等々が全国の養護施設に贈られた。時を同じくした1月16日、女性だけで結成されているふくいピュアライオンズクラブ（34人）は、福井市の養護施設「ふれあい園」と鯖江市「吉江学園」を訪問。東京からプロフェッショナル・ボランティア「ハッピースマイルプロジェクト」を招き、美しい感動の歌声によるミュージカルの出前公演を実施した。

このハッピースマイルプロジェクトは、元宝塚歌劇団月組のやまぐちあきこさんが主宰するもので、日頃は各メ

山形県・寒河江ライオンズクラブ
チンドン屋とナツメロで施設訪問



雪の降る2月13日。寒河江ライオンズクラブ（45人）は社会福祉委員長をリーダーに、クラブ・メンバー、ナツメロ歌手、PRカメラマンの合計11人で寒河江市内の介護老人保健施設「やすらぎの里」を訪問した。昨年11月に同様の施設「長生園」を訪問したのに次いで2回目である。

当クラブの最年長者、90歳の若川越信次の他、若荒木勝吾、若宮林重雄は「寒河江ナツメロ愛好会」の会員であり、施設訪問は慣れたもの。3人が歌う昔懐かしい演歌に入所者も大喜びだ

った。

また、私が地元の愛好者で続けているチンドン屋6人も応援で参加。童謡や演歌など、入所者の年齢に合わせた演奏で、共に合唱したり踊ったりで会場を沸かせた。時には面白い川柳を紹介するなど、入所者にも参加頂けるようなやりとりをして、楽しいひと時を過ごすことが出来た。

当初は1時間の予定だったが、童謡を始め皆さんご存じの曲がほとんどで口ずさむのが楽しかったのか、アンコールの声に込えているうちに20分もオ

ンバーがプロとして音楽活動をしている。都内を中心に、劇場に來られない方たちのために無償で出前公演を行っているのだ。

今回は宿泊交通費をクラブが負担。男女7人が1泊2日で福井まで来てく

ださった。
 通常は老人ホームが多いそうだが、今回はさまざまな理由で親と一緒に暮らせない子どもたちが暮らす養護施設。彼らに、国際会長テーマである「希望の光」を照らしたい、プロの生の歌声を届け、心に響く感動で、明るく元気に希望を持って生きてほしい、という願いを込めた。

バーしてしまった。

最後に、1日早いバレンタインチョココレートを1個ずつ手渡しして握手攻めにあい、「また来いナー」という声に送られて、後髪ひかれる思いで会場を後にした。

当日は山形新聞の取材を受け、後日紙面を飾り各方面から激励を頂いた。楽しみの少ないお年寄りの方々に喜んでもらい、お礼のお便りを頂いたり、「今度いつ来るのー」と言われたり。期待される限り続けたいものである。

（会長／鈴木荘介）

「夢」がテーマの約45分の公演は、デイズニーやミュージカル曲12曲で構成され、目の前で美しい衣装を身につけて歌って踊って頂いた。保育園から高校生まで約70人の子どもたちに感動と勇氣と希望の光が届いたようだ。

観賞した子どもたちは、「音楽を聴いてとても楽しい気持ちになりました。私たちは勉強や運動をがんばります」

と喜び、また自分の夢を語ってくれた。当日のアクティビティは新聞やテレビのニュースでも報道され、当クラブにも希望の光が照らされた。

（会長／内田伸子）

栃木県・佐野ライオンズクラブ
さよなら 栃木県立佐野女子高



佐野ライオンズクラブ（川崎元会長／32人）は、文化・芸術・スポーツ等の分野でひたむきに努力し、輝いている地元の人・団体を支援、サポートする事業を行っている。

今期、私たちは家族会（武藤加代子委員長）の一環として、佐野女子高合唱部を当クラブ例会場・ホテルサンルート佐野にお招きしての演奏会を企画開催した。

佐野女子高（三品勝弘校長）は明治40年創立。104年の歴史と伝統のある高校で、男子校の佐野高校と同じく、佐野に生まれ育まれ市民に長く親しま

れてきた高校である。

しかしながら今年4月1日から、昨今の高校再編の流れ、栃木県教育委員会の方針により、男女共学の佐野東高校へと生まれ変わる事になった。

市民の間に長く親しまれ、愛着を持たれていただけに、その名を惜しむ声は同窓会・八千代会を中心に数多く起こり、衝撃は多方面に及んだ。

そこで、この節目に私たちライオンズが、数々の受賞歴のある佐女高合唱部（顧問・内田等先生）を迎え、演奏会を企画した次第である。

当日は佐女高OGはもちろん、市民

の皆様が多数お越しになり、我々メンバーもファミリーも一緒になって、清らかな歌声と美しいハーモニーに魅了された。数々の記憶や思いが込み上げて目をつむっている人、うつすら涙を浮かべながら校歌に聞き入っている人等々、惜別の情、動かしがたい去りゆくものへの感傷に会場は包まれた。

さよなら佐野女子高、会場内の皆様は心の中で一様にそうつぶやいたに違いない。

この演奏会の模様は、3月1日に地元紙・下野新聞に写真入りで掲載された。（家族会副実行委員長／上岡正広）

広島県・上下クラブ
健康づくりウォーキング大会



晴天の3月27日、上下ショッピンセンター「すいすい」を発着点に、第7回健康づくりウォーキング大会を開催した。この大会は、地域の人たちと上下ライオンズクラブ（39人）の絆を増し、人生百歳時代を元気に楽しく生きることとを目標としている。約60人が参加、春風そよぐさわやかな自然を満喫した。

開会式は伊藤敏雄献眼献血保健福祉委員長が司会を務め、池田一弘会長のあいさつで始まり、未曾有の被害を受けた東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げ一日も早い復興を願った。

続いて上下交番細川明広所長の話を

聞いた後、ボスチュア・スタイリスト・板橋千代子先生の指導でストレッチを行った。ボスチュアとは、姿勢を整えて歩くと心と体が元気になるというものだ。

10時、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」の旗を先頭にスタート。ウォーキングは健康維持やストレス解消に効果的で、体に優しい有酸素運動。首筋を真つすぐに伸ばし腕を振って普段よりやや広めの歩幅で歩く。

美しい自然、すがすがしくおいしい空気をいっぱい吸い込み、身も心も清涼感で満たされた。武蔵池周辺にはツ

クシの坊やが顔をのぞかせた。弘法山頂上の展望台では中国山地を見渡し、大パノラマを眺めながらお弁当をおいしく頂いた。

表彰式では最高齢者と最年少者が表彰され、完歩した全員に登頂記念品が渡された。

今春、上下高校に留学された中国からの留学生3人も紹介された。上下町は空気も食事もうまいと感想を述べ、すばらしい景色に感動されていた。

午後2時半には全員無事故でゴール。万歩計を見ると1万7522歩だった。

（PR・IT委員／藤井徳夫）



2010年、宮崎県南部を中心に発生した口蹄疫では、畜産業のみならず学校もまた被害を受けている。宮崎オーシャンライオンズクラブ（日高節子会長／35人）は20周年記念事業の一つとして、高鍋町の宮崎県立高鍋農業高等学校（岩下英樹校長／359人）へ乳用牛の育成牛1頭を贈呈。2月21日に同校を訪れ、岩下校長に報告、牛舎などを視察した。

日高会長が

「昨年は家畜の伝染病である口蹄疫が猛威を振るい、29万頭という想像もつ

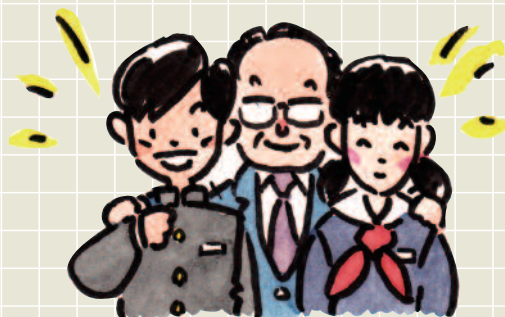
かない数の牛や豚たちが私たちの生活を守るために殺処分されました。贈呈した牛がこれから酪農を学ぶ高校生たちに大切に飼育され、りっぱな乳牛として育っていくことを望むと共に、高校生たちにも酪農経験者として質の高い搾乳及び飼育、育成の技術を学んでほしいと思います。次世代を担う子どもたちの役に立ちたいと考え、このような手伝いが出来ることをうれしく思います」

とあいさつ。

岩下校長は同校でも牛や豚335頭

を殺処分せざるを得なかったことなどを説明。
「のどから手が出るほどほしかった牛を頂きありがとうございます。りっぱに育て、血統を代々残していきたいと思っています」
と感謝の言葉を述べられた。
報告終了後、会員たちで防護服を着て牛舎を視察。贈った牛が元氣よく動く様子を見た後、家畜が眠る埋却地を訪れ全員で黙祷をした。2度とこのようなことが発生しないように願いつつ同校を後にした。（幹事／阿部敬二）

沼津中央ライオンズ基金から羽ばたいた170人



今から25年前。沼津中央ライオンズクラブ（長澤宏会長／24人）は結成10周年を迎え、他クラブにない記念アクティビティをと、高校生を対象とした奨学金制度をスタートした。いささか荒唐無稽ながら、原資として5千万円を集めることに。当時の金利が年5%くらいで利息250万円を奨学金にすれば原資に手を付けずに維持出来るだろうと予測したのだ。

とはいえ当時のメンバーは50人程度。1人100万円は到底無理で、10年間を目標に、①クラブ会費②資金獲得アクティビティ③会員のドネーション④外部からの寄付金から、「沼津中央ラ

イオンズ基金」として積み立てていくことにした。

第1回は市内17校の中学3年生と7校の公立高校から推薦してもらい、市教育長らの外部有識者を交え、成績、素行、活動状況などを考慮して応募者12人の中から7人に奨学金を贈呈した。奨学生には認定状の授与式を行い、地味ではあるが忘れがたい日となるよう配慮工夫をした。奨学金は毎月2万円を学校長名義の口座に振り込み、その後本人に渡してもらった仕組みにした。もちろん返金の必要はない。

その後積み立ては苦労の連続。外部からの寄付は皆無に等しく、会費から

の徴収ではおぼつかず、資金獲得アクティビティを必死に実行。会員家族の葬儀時の香典返しを頂くこともあり、10年間で何とか目標の5千万円を達成した。

そしてこの25年間に述べ170人の奨学生が高校を巣立っていった。卒業時には生徒一人ひとりが感謝の気持ちを述べてくれ、その言葉に会員一同が癒やされている。

以前より会員数は減少しているが、このアクティビティが未来永劫継続出来るよう、目標を確認し合って前進している我がクラブである。

（基金委員長／宮川寛）

大分県から被災地へ緊急支援物資搬送



3月19～27日、中津ライオンズクラブ（相良繁利会長／44人）の有志が、東日本大震災で被災した仙台市へ緊急支援物資搬送を行った。

私が施設長を務める介護保険総合ケアセンターいずみの園では3月17日に、交流のある被災地の福祉施設と連絡がとれ、食料、物資不足から悲鳴に近い被災地の状況を確認した。すぐさまクラブ会員有志の協力を得て、「確実に物資を届ける手段」として物資を4トラックで現地へ直接運ぶ方法を選択した。

青果業を営む森口昌和は同業者の協力も得て総重量1トにも及ぶ野菜や果物を提供、看板業の藤原研司は緊急車両の指定を受けたトラックに張る「緊急車両指定」の横断幕を無償で作成、私が米、食料、医薬品やオムツなどの介護用品を手配した。19日、建設業の西畑修司は同業者3人と共に交代で被災地まで運転し、翌20日、被災に苦しむ施設や避難所に救援物資を届けた。その後も現地に滞在し、トラックで寝泊りしながら26日まで、物資搬送のボランティアに携わった。

支援は緊急を要し、クラブ理事会の承認を待つ時間も惜しかったことから、緊急車両にライオンズクラブの文字を掲げることこそ出来なかったが、物資搬送にかかわったメンバー全員、ライオンズに貫かれた奉仕の精神でがんばった。

大分県中津市から宮城県仙台市までは往復3100キロ、現地搬送ボランティアでも2100キロを、ウィ・サーブの精神で走りきった西畑にはクラブでも称賛の声が絶えない。

（幹事／富永健司）

私たちが出来ること



3月11日、私たちが過去に経験したことのない地震と津波が東北関東を襲った。以後の経過については各報道機関の報じた通りである。

幸いと言えば語弊があるかもしれないが、久慈ライオンズクラブ（75人）の地域は今多くの被害を被った沿岸部の中では、震源地から離れていることもあり、死者、行方不明各2人と被害が少なく、流失家屋もその通りであった。当クラブでは地域住民及び地域社会に対して何が出来るのか。会員の声を聞きながら、三役会を開き、インフラ整備がある程度整った時点で奉仕活動することに決めた。

3月21日午前9時、久慈川河川敷に集合。中心市街地のすぐそばの河原に散乱していた、津波によって打ち寄せられた流木、生ごみ、河川内に茂っていた葦を始め、枯れた植物などを回収した。

この辺りは一部が公園や遊歩道となっている市民の憩いの場でもあり、重機で一掃することも出来ず、手作業が中心となった。会員やその家族、造園業を営む会員の従業員等30数人にも参加頂き、約200時間の美化に努めることが出来た。

大変うれしいことに、作業中に市民の方々から「ご苦労様」と声を掛けて

頂いた、「会社が営業しているためお手伝いが出来ないから」と差し入れを頂いたりで励まされながらの作業となり、かえって恐縮する場面もあった。本来ならば被害地に向き作業に従事すべきであるが、全国各地から現地入りされている自衛隊・消防・警察等の足手まといにならないよう、また二次災害の危険も勘案した結果の活動であった。

最後になりましたが、今回の震災に当たり全国並びに全世界のライオンズクラブから多大なるご協力・ご支援を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

（会長／黒沼正雄）

被災者・子どもたちが 安らぎのある生活を取り戻すまで



3月11日午後2時46分、東北地方を中心に未曾有の大地震が東日本を襲った。テレビ等の緊急情報により、関東大震災、阪神淡路大震災を上回る観測史上最大の大地震であることが報じられた。

吉岡基代ゾーン・チェアパーソンが、ライオンズとして大至急被災地に対し支援を送りたいので募金活動を行いたいと提案。3月19日、ゾーン内6クラブ（浦和、浦和南、浦和東、浦和すみれ、浦和サザン、さいたまハーモニー）合同で実施することが決定した。

当日は浦和駅西口伊勢丹前において、約40人のメンバーが一丸となって道行く人々に募金を呼び掛けた。

伊勢丹前は瞬く間に人だかりとなり、熱気にあふれた。小さな子が母親と共に多額の寄付をしてくれたり、また車いすで寄付してくれた子どもには、メンバーも感動を抑えられない場面もあった。

被災地の方々への支援をしたいと思っても個人ではなかなかままならないが、ライオンズクラブとしての募金活動は老若男女を問わず心を一つにし、

温かい思いの込められた浄財を集めることが出来た。

この活動を顧みて、ライオンズ・メンバーの絆の強さを感じた。そしてウイ・サーブの下に行われたこの活動が、東北の皆様の努力を後押しする一翼を担えれば幸いである。メンバー一同、今後も支援を続けていきたいという思いを強くした。

被災地の方々の一日も早い復興を祈り激励を送ります。東北魂！日本がんばれ！！

（浦和ライオンズクラブ会長／吉田博晃）

した」

何度も何度もお礼の声を張り上げた。多くのメンバーが目頭を熱くした。心の奥に届けられたこの感動は、ライオンズだからこそその貴重な体験であり、得難い財産となって深く心に刻まれた。5時間の活動で寄せられた善意は総額190万6027円にも上った。被災した子どもたちが1日も早く安らぎのある生活を取り戻せるようお願いを込めて332複合地区へ送金した。

今回は関取衆の参加が渋谷の街を行き交う人々の心を動かし、募金活動を成功に導く一因となったと言えよう。当クラブ・メンバーの田子ノ浦啓人親方の熱意が相撲協会に伝わり、大関・把瑠都、日馬富士を始めたくさんの力士に協力頂いた。

他にも、歌舞伎界から片岡愛之助さんにも、歌舞伎界から片岡愛之助さん

「坊や、ありがとう」
「おばあちゃん、ありがとうございま

被災地の皆様、元気を出してがんばってください。長期にわたる道のりになるかと思ひます。私たちががんばります。
（水牧祐次郎）

東北地方太平洋沖地震の募金活動



東北地方太平洋沖地震。

その広さ、規模、そして津波の大きさに度肝を抜かれた。

「これは現実の世界なのか」

それこそが日本中の人々の思いであったと思う。

「被害のなかった私たちが、被災された方々に何をしてあげられるのか」

言葉や格好は必要ない。

ライオンズクラブが世間に認められ安心して託して頂ける募金活動こそ、今やるべきことだ。3月6日のニュー

女性ばかり29人の私たち倉敷ローズライオンズクラブ（大塚富美子会長）は、東日本大震災のニュース等を見るにつけ居ても立つてもおられぬ気持ちになり、考えた末、義援金の募金をすることに決定致しました。

クラブの拠出金に加え広く市民の皆様からも寄付を仰ぐこととなり、会場は大勢の買い物客でにぎわう地元の天満屋ハピータウンにお願いを致しました。募金の趣旨を書いた大看板を急ぎょ作成、募金箱は市販の箱にテープを張って手作りするなど、一刻も早い実施を目指しました。

3月17日の当日は、会員が店内各所に立ち、大きな声で募金を呼び掛けま



した。

杖をついたり、車いすに乗る老人が募金をしてくださり、現地への激励の

ジランド・クライストチャーチ募金活動から間がなかったが、会員のやる氣に加えて、「私たちも協力します」という尼崎レオクラブの応援があり、強力な布陣で総勢27人。

3月19日、前回同様阪急塚口南改札口前。森本地区ガバナリーの応援も頂いて、すばらしく力強い募金活動になった。情報の多い国内での大震災であり、人々の関心も高い。高額の紙幣を託してくださる人も多く、「日本はまだ捨てたものではない」と力強さを感じた。

言葉の伝達を頼まれたり、財布の底までひっくり返し募金してくれた高校生、通る度に何度も募金してくれた主婦、握りしめた100円玉をそっと入れてくれた幼児など、いずれも被災者を思ってお気持ちがあふれていて涙がこぼれました。

これら市民の方が寄付してくださった浄財は24万3325円になりました。それに我がクラブ拠出の100万円を合わせて、未曾有の被害を受けた332複合地区へその日のうちに送金致しました。

今、最も困っている方々に我が地方の人々の気持ちが直接届きますよう祈っています。

（永山延子）

小さい子に託して募金して下さった人には、「ありがとございました」と一段と声を張り上げた。お互い、につこりとほほ笑む時の思いは「癖になりそう」にすばらしいものである。

今日1日、朝から夕方まで続いた募金活動は41万円を超える義援金となった。

被災地域の復興に役立てられることを願うと共に、ライオンズ・メンバーとして達成感を得られた1日であった。

（会長／安田穂）

「思春期のライフスキル」プログラム

少年サッカー大会開催



12月23日、新しい堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンターを会場に人工芝フィールド4面を使い、第10回大阪東住吉平野ライオンズカップ少年サッカー大会が盛大に開催された。大阪東住吉平野ライオンズクラブ（幸野洋司会長／26人）の方針で、東住吉地区・平野地区の出来るだけ多くの子どもたちに、試合を通じてたくさんのかつとを学び、友好を深め、広いグラウンドで思いきり走り、楽しい思い出を作ってもらうことを目的とした。参加を

倉敷西ライオンズクラブ（田野郁夫会長／75人）では昨年からのライオンズクエスト・プログラムを積極的に進めてきており、1月8、9日の2日間、校内型のワークショップを玉島北中学校にて開催した。

中学校教職員18人、小学校教職員9人に加え当クラブのメンバー4人と西伯南ライオンズクラブメンバー1人の32人が参加。最初は、休日を使つての研修に乗り気でない先生方も見受けられたが、青少年育成支援フォーラム（JYYD）講師の関西弁での楽しい体験型授業が進められると、とまどいながらも参加者も、次第に積極的に参加するようになっていった。



募ったところ、21チームが集まった。試合は、平野少年サッカー連盟の運営で円滑に進められた。トーナメント戦で各チーム3試合以上行えるように組み合わせられている。子どもたちは元気良く、はつらつとしたプレーで僅差の白熱した試合を繰り広げ、観覧席の保護者の皆さんも寒さを吹き飛ばすような熱い声援を送っていた。

午前9時からスタートした大会は、午後5時を回り辺りが薄暗くなった頃終了した。閉会式は幸野会長のあいさ

ワークショップでは生徒の立場と教師の立場、それぞれの体験が出来る。生きていくために必要なスキルやコミ

つの後、授賞式に移り、優勝チームに優勝旗が、各入賞チームに賞状や盾が贈呈され、選手には参加賞が手渡された。更に第10回の記念大会ということで、監督に各チーム1人の最優秀選手を選んでもらいメダルを贈呈した。

子どもたちの純真無垢な笑顔を見て、長年にわたり青少年育成に力を尽くしてきた当クラブにとって、ほんとうにすばらしいアクティビティだったと感じながら会場を後にした。

（青少年指導委員長／仲谷源次）

ユニケーション能力を学ぶ授業に、参加者一同いろいろな気づきがあったのではないだろうか。私自身、いろいろな体験を通して学ぶライオンズクエスト・プログラムを知り、これが小学校時代からすべての学校で取り入れられれば、今、悩み苦しんでいる子どもたちや先生、またそこにかかわるすべての人を救うことなのではないかと感じた。

わずか2日間でプログラムをすべて理解することは難しいが、参加した先生方にはプログラムと資料を活用して授業を実施して頂き、多くの子どもたちの心に届くことを願う。

（PR委員長／花あき）

大阪府・八尾中央ライオンズクラブ
薬物乱用防止講座受講者5千人達成



2005年6月に羽丸矢道明と2人で薬物乱用防止教育認定講師講座を受講してから6年。今では防止教室は八尾中央ライオンズクラブ（敷中東一会長／53人）のアクティビティの柱になっている。

最初は「どうすれば良いのか？」と悩んだあげく、「一度やってみましようや」と、06年2月に近所の大正北小学校で行った。それなりに出来たと思いきや、最後に「薬物というのはいつの時代からあるのですか？」と質問。「江戸時代にはアヘンがあったからその頃からでは」と何とか返答。また

「悪い人にそのように誘われたり連れて行かれたりしたらどう断るのですか？」との質問には、羽丸矢が「学校の先生やお父さん、お母さん、近所にはライオンズのおっちゃんも居るから1人で悩まず近くに居る人に相談することや」と答えてくれてほっとした。校長先生から「良かったですよ。来年もよろしく」と言われ自信を持った。

以降はとんとん拍子に進み、他クラブや八尾市教育研究会（保健体育教諭）、市内小・中学校、東大阪市の高校などで開催。07年には羽丸矢と共に、大阪府から薬物乱用防止功労賞を頂いた。

これまでに小学6年生延べ約5千人が中学進学前に受講。子どもたちは重要な授業であることが分かっているように、本当に真剣に聞いてくれる。実施後の感想文には「薬物の恐ろしさが分かりました」「絶対に薬物に手を出しません」等々あり、嬉し涙が出てくる。費用は少なく、我々は2時間体を空ければ済む重要な事業。クラブ・メンバーも次々と講師の資格取得にがんばっている。受講生徒延べ1万人になったら1回楽しいお酒でも飲みますか！「子どもは地域の宝物」バンザイ！！

（委員長／正木猛司）

大分中央クラブ
薬物乱用防止教室・高校編



12月21、22日に大分市内の県立大分工業高等学校、私立大分国際情報高等学校にて、松本内科クリニック院長で薬物乱用防止認定講師の松本悠輝が、計約千人の生徒に対し講座を開催した。

「なぜ薬物乱用はいけないのか？」という基本テーマから、その害・影響・中毒・依存の怖さを、パワーポイントを使用し約1時間にわたり理解しやすく解説した。

「これから社会に出たり進学して親元を離れると、開放感から隙が生じ狙われやすいのです。元気になるから、やるからなどと誘惑されます。『ちょ

っとだけなら』という安易な気持ちで興味を持ち、やめられなくなるケースがあります。

身近なものではタバコ・お酒も過ぎれば依存症（中毒）になります。もつと怖いのは覚せい剤・MADA等薬物の乱用すると幻覚が現れ、脳の萎縮、肝硬変、高血圧などを生じます。正常な判断が出来ず、正常な社会生活が送れなくなります。壊れた脳は元には戻りません。クスリが切れると禁断症状が現れ、クスリ欲しさに犯罪に手を染める者もいます。

また、知らないうちに覚せい剤の運

び屋になってしまいうこともあります。海外旅行先で『荷物がいっぱいあるので手を貸してほしい』などと言われ、覚せい剤入りの荷物を運んでしまうのです。運び屋に仕立てられ、国によっては死刑判決を受けたケースもあるので、決して他人の荷物は預からないことが重要です」

当クラブからも十数人が参加し認識を新たにしました。

次代を担う若者には希望の持てる未来を渡したい。このような取り組みが当地区でも盛んになっていくことを願う。

（幹事／安東健児）

獅子吼

とにかく何かをしなくては

茅島 純一（東京江戸川東）

今回の大震災の募金活動では、「日本人は捨てたもんじゃない」とつくづく思うこととなりました。私はこれまでに3回の募金活動をしてきました。

「とにかく何かをしなくては」

そう思ったのは3月12日のことでした。

あの3月11日は、私たち330・A地区、河合悦子地区ガバナーのメーン・アクティビティ「難病対策支援コンサート」の日でもありました。夕方のコンサートを前に、東京芸術劇場前の池袋西口公園で朝からイベントを行い、夕方のコンサートを待っていました。

その時です。2度の大地震が起こったのは。

コンサートは中止になり、私たちは中止の連絡や片付けなどに追われ、地震の後に何が起きているのかを知りませんでした。2年間かけて準備してきたイベントの中止で、茫然としていたのです。

しかし一夜明けて、目の前に映し出される光景に愕然とし、事実を受け止められない

気持ちでした。

「とにかく何かをしなくては」

何をしたらいいのかわからないまま、14日月曜日のキャビネット定例会を迎えました。私たち幹事団は河合ガバナーに「指示を出してください」と訴えました。そして「何かをせずにはいられない」という気持ちで、キャビネット事務局に近い新宿駅前で募金活動を始めました。

準備らしい準備もなく、募金箱とメガホン一つで道行く人たちに訴え続けました。始めて間もなく、若い女性が私のところに来ました。

「これは震災の募金ですか？」

「そうですよ」

「よろしくお願いします。私の友達と連絡が取れないんです」

と涙ぐみながら、私たちに託すように千円を募金してくれました。また別の若い女性は、自分の持っていた財布の中身を全部募金箱に入れた後、

「一緒に募金活動させて頂けますか？」

と申し出てくれ、最後まで私たちと一緒に声を張り上げてくれました。

別の日、クラブのメンバーと地元の江戸川区で募金活動を行った時、私たちの前を通り過ぎた20代前半の男性が、目の前にあった銀行のATMから8万円を引き出し、全額を募金箱へ入れ、「がんばってください」と言って立ち去りました。また、その日、私たちが片付けをしている間に「まだ募金出来ませんか？」と聞いてきた、やはり20代前半の男性は、財布から2万円を募金箱に入れ、「よろしくお願いします」と私たちに義援金を託したのです。

次の日の募金では、私がクラブ・メンバーの様子を撮影しながら回っていると、今年入会した新会員（年齢は60歳ですが）が、大きな体で、涙を流しながら募金箱を抱えていました。募金活動をするのは初めてだった彼は、道行く人が温かい言葉を掛けて募金をしてくださる姿に感動して涙が出たのだそうです。

そして2日間にわたって行った募金活動の最後に、募金をしてくれたのは、ホームレスの人でした。

「オレ、ホームレスだけどよ、今日のメシ代寄付するよ」

と言って120円を募金してくれました。3回の募金を通じて、たくさんのお言葉を頂きました。「お願いしますね」「がんばってください」「ご苦労様です」……みんな

●獅子吼(ししく)

①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。

②大いに熱弁をふるうこと。(広辞苑)

●投稿要領→54頁

な気持ちは同じで、私たちがみなさんの願いをお預かりしているのだということがひしひしと伝わってきました。

また、若い人たちが積極的に募金をしてくれたという印象が強かったです。顔に何カ所もピアスを開けて、歩くと「チャラチャラ」と音のするような若者が、「がんばってください」と財布から千円を入れてくれたり、本当に「日本は捨てたもんじゃない」と強く感じ、「日本人でよかった」「ライオンズクラブでよかった」と感じる今回の募金活動でした。

きっと日本は、すごいスピードで復興を果たすと確信しました。

緊急物資支援とネットワーク

小野木 巧 (岐阜県・土岐織部)

今期、334・B地区(岐阜県・三重県)では、いつ起こるとも知れぬ大地震などの自然災害や、不測の事態に迅速・的確に対処出来るよう、機動力のあるアラート機能を構築することになりました。その手段として、各クラブに兼任でもいいのでアラート委員を選出して頂き、同時に被災地状況

や支援物資などの情報を網羅する地区ライオンクラブズ・ネットワーク(愛称「334 B ネット」)を立ち上げ参加して頂くこととなり、徐々にスキームなども整えようと活動をしていました。

その矢先の、大規模震災でした。アラート委員会がどのように機能するか試される



イラスト／小川和政

機会ともなり、まずは沿岸部各市町村の災害対策本部とコンタクトを取り、支援の準備があることを伝えました。

3月14日、福島県相馬市災害対策本部から食料品などの支援要請が入り、地元の相馬ライオンズクラブとの連携も図りながら、支援計画を策定。その支援計画をガバナリーに報告し、334 B ネットを通じて、各クラブ・アラート委員に緊急物資を集めて頂くよう呼び掛けをしました。

また3月24日には宮城県山元町からの支援要請もあり、山元ライオンズクラブとも協力して支援を行うことになりました。いずれも7日間という限られた時間の中で、物資を集積場に手配しなければならぬ火急・緊急の出来事であり、クラブにとっては行動力と柔軟性が要求される活動となりました。

そんな中で多くのクラブから物資が届き始め、集積場は救援物資でごった返しました。また、それを仕分けしてトラックへ積み込む作業にも、多くのメンバーが参加してくれ、ライオンからライオンへ、多くの人の手を介し被災者へと届けられました。

被災地では、地元ライオンズの図らいもあり、直に被災者の皆さんに物資やメッセージをお渡しすることも出来ました。子どもと絵本を読んだり、おもちゃで遊んだり、会話したり、短い時間ではありましたが、少しでも被災者の皆さんに元気を出して頂

きたいとの思いで訪問させてもらいました。帰り際に、被災者のおばちゃんから「がんばってね!」と声を掛けられた時には、胸が熱くなり言葉になりませんでした。誰かが言っておられました、「助けているつもりが、助けられている」。まさにその通りであると感じました。

それを踏まえ、334Bネット内はもとより、第4回キャビネット会議においても、画像と共に活動報告をすることになりました。今回、地区として初の試みでもあった334Bネットを使った支援活動において

は、情報を迅速に伝え、時には行動計画を修正しながら、的確な支援活動が速やかに出来たことは一応の成果であったと思われる。

しかしながら、すべてのクラブに情報が行き渡っていないのが現状であり、今後はその辺りをどのように進めていくか、また緊急・火急の場合にクラブとしての対応をどうするのかなど、課題は多いように思われます。いずれにせよ今回のアラート支援において、クラブの緊急支援に対する指針が出来上がることに期待するところです。

直後の週末に、福岡のライオンズ・メンバー約70人が、博多駅と天神で募金を行い、2時間で約180万円を集めたという書き込みを見て、大変勇気付けられました。

3月19日からの3連休は、電車で移動出来る浦安のボランティアに参加するつもりでした。が、18日の午後11時頃、いつものようにSNSにログインしたら、スケジュールに「19日(土) 緊急募集! (東京周辺の方)」との表示がありました。

詳しい内容を見ると、各地から届く支援物資積み替えのため、朝8時30分、新木場地区集合、と書いてありました。集合時間まで9時間半でしたが、思わず「参加」のボタンを押して寝ました。

19日、ほとんど初対面のライオン約10人と、コンテナいっぱいミニラルウオーターやダンボールをトラック2台に移し替え、私は積み下ろしのために緊急車両のトラックに乗って日立市災害対策本部に向かいました。現地では日立桜ライオンズクラブの北村理光会長が迎えてくれました。

日立市災害対策本部には自衛隊も入っており、物資は市職員と自衛隊によって避難所に届けられるということでした。また、身動き出来ない被災者のために、自衛隊の方が戸別訪問をして物資を配ってくれるそうです。ライオンの心と心をつなぐリレーに参加出来て良かったと思えた一日でした。20日は所属する千葉ネオライオンズクラブ

ライオンの心と心をつなぐリレー

実 翔 富 二 男 (千葉ネオ)

東日本大震災により、多くの尊い命が失われ、多方面に甚大な被害をもたらしたことは痛恨の念に耐えません。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族に対しまして衷心よりお悔やみを申し上げます。また、すべての被災された方々にお見舞いを申し上げます。

大震災の後、自分に出来ることは何かを考えました。

まずは、義援金を振り込み、週末限定でボランティアに登録しました。そして、全国のライオンズクラブ・メンバーが登録し、普段から交流をしているソーシャル・ネットワーク(SNS)で情報収集を行いました。このSNSには、被災地で必要とされている物資のリスト、受け入れ窓口、被災地のボランティアの募集窓口など、有用な情報がいち早く掲載されていました。震災

メンバー7人と共に朝6時に千葉市を出発し、災害ボランティアとして活動するために津波の被害に遭った千葉県旭市に向かいました。ボランティアセンターでボランティア登録を終えた後、飯岡ライオンズクラブの要請で、被災した磯村史雄宅に向かいました。磯村宅は海岸沿いの道路に面しており、工場と居宅がある敷地内の泥や瓦礫の撤去を行いました。想像を超える、ものすごい量の泥でした。

作業終了後、翌週は宮城が福島で活動しようという話になり解散。

その後、SNSで私が「27日千葉の40代会員5人くらい動けます。お手伝いリクエスト受付中」と書いたところ、「猪苗代へ行けますか？」との打診があり快諾。内容は八複合地区ガバナー協議会による支援活

動の一つで、米10トを被災地へ届けるための活動でした。

当日は最初の7人に新会員2人、他クラブ1人、ノンライオン3人を加えた13人で、福島県猪苗代町へ向け出発。現地では332・D地区や米の宅配を担当された335・A地区の方と合流し、5ト入りの無洗米2千袋をトラックから降ろし、1袋ずつライオンズのシールを張りました。その後、会津美里町に無洗米500トと、所属クラブからの支援物資を届けました。参加した新会員からは「参加出来て本当に良かった」、一般の方からは「ぜひライオンズ入会を検討したい」との感想を頂きました。

ゴールデンウィークには、所属クラブで

整備した中古自転車50台を被災地に届ける予定です。

今後も長期的な支援が必要です。今後の支援活動については、各クラブに被災地のクラブを割り当てて、数十のクラブが一つの被災クラブを受け持つ支援するのが良いのではないかと考えています。いかがでしょうか。

本年度、333・C地区では多くの方々のご尽力により、三つの新クラブが結成され、地区EXT・会員維持委員長としての責務は果たせたかなと考えています。しかし、333・C地区にも被災されたメンバーやクラブがあります。今後は退会者やクラブの解散がないように、働きかけていく所存です。

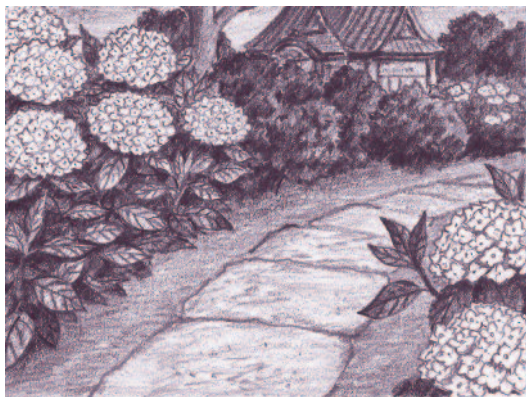
LCIFへの感謝とお願い

新井 康彦（兵庫県・姫路白鷺）

我々ライオンズ・メンバーは、異業種の集団です。一人ひとり性格も違えば、考え方も違います。そういう人たちが集まり、毎年違った委員会に属して、一生懸命委員会のメンバーと意見を交わし、その年の事業に取り組んでおります。

一般のライオンズクラブの状況は、非常に悪い状況であると危惧しています。原因はいくつかあります。経済情勢の悪化、政治の腐敗、世情の悪化、長引く不況、メンバーの高齢化等々、挙げればきりがありません。





そんな中、本年3月11日、14時46分に東北・三陸海岸沖で、M9・0の大地震が起これ、30分足らずのうちに、予想をはるかに超える大津波が、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉各県を襲いました。あつという間に家屋はもちろん、田畑も電車も車ものみ込まれ、仙台空港も見ても無残な姿に変貌してしまいました。

震災後2週間がたち、死者が1万人を超え、行方不明者も1万5千人を超え、最悪の事態となりました。その上、福島原発の事故が発生し、放射性物質の放出が危惧され、飲み水も汚染されています。

このような非常事態の中、LCIFはいち早く「4億円の緊急援助を決めた」との報道がありました（その後、約6億円に増額）。とても嬉しかったし、さすがライオンズクラブ国際財団（LCIF）だと思いました。

LCIFは1968年の創設以来、約1万件の人道奉仕活動に対し、6億8千万ドルを交付しています。そのLCIFに対して、日本は世界各国の中でいちばん貢献していると自負しています。最近では、視力ファーストIIキャンペーン（CSFII）の際、世界で2億ドル（200億円）以上

が献金されましたが、その内の約30%（60億円）が日本からの献金でした。ちなみにアメリカは12%、韓国は10%でした。

LCIFの集計によりますと、2006・07年度の日本からの献金は、約1712万ドルでした。CSFIIの開始前は約800万ドルでしたが、CSFIIがスタートした05年度に1560万ドルに増え、06年度に更に伸びました。一方、06年度中に日本に交付された交付金は47件で約98万ドルでした。日本はCSFIIの3年間（05～07年度）で5100万ドルを突破したのです。

今回のLCIFからの4億円の交付額は、「すばらしい」の一声です。日本がこれまでにヘレン・ケラー女史の「盲人のための騎士になってください」との呼び掛けに込め、ライオンズの大プログラムである視力ファーストに貢献し、その後、いろいろな人道的アクティビティに協力したことが認められたのです。日本ライオンズは、LCIFに対して今まで以上に貢献をし、世界中の恵まれない人々や、より良い明日を探し求めている人々のために、光と希望を分け与えられるよう、一人ひとりが意識を持って、目を向けようではありませんか。

またもう一つ言わせてもらえらば、日本において今回の予想だにしない大災害が、これからも起こる可能性は大であります。新燃岳の噴火、桜島の噴火、日本列島の至る所で多発する地震等々、近い将来起

こり得る事態に備えて、現在LCIFに毎年1億円以上の献金をしている、その内の40%を日本で管理する「日本ライオンズクラブ基金」としてプールし、今回のような非常事態にすぐ活用出来る状態にしておく必要があると考えますが、いかがですか？

これにより、LCIFにも、また他の国にも迷惑を掛けず、被災地に素早く支援が出来ると信じております。この記事を読まれたライオンズ・メンバーにおかれましては、賛同の意を表して頂き、10万人以上のメンバーから日本の上層部に働き掛けられたら幸いに思います。どうか十分なるご検討をお願い致します。「感謝」。

お仏壇・仏具はやっぱり京都



(株) **若林**

伝統工芸 京仏壇・京仏具

京都本社 〒600-8218京都市下京区七条通新町東入 ☎075-371-3131 (代)
 東京店 〒146-0081東京都大田区仲池上2-8-13 ☎03-3755-8488 (代)
 築地店 ☎03-3546-8228 (代)
 札幌店 ☎011-512-3455 (代)
 仙台店 ☎022-213-0666 (代)
 近江草津店 ☎077-564-1011 (代)
 福岡営業所 ☎092-761-3737 (代)
 新潟営業所 ☎025-255-0868 (代)

◎お仏壇のカatalog
 差し上げます。
 ◎お近くの若林各店
 までお気軽に。

京都ライオンズクラブ会員 若林正博

ふるさと
探訪

長崎県平戸市

■文／砂山幹博 写真／田中勝明

華やかな大航海時代の面影と、 キリスト教受難の歴史を持つ港町





田平天主堂の内部。ステンドグラスから差し込んだ色とりどりの光が降り注いでいた

かくれキリシタン信仰の誕生

東シナ海から玄界灘に抜ける海上交通の要衝だったことから、古来、大陸との交易港として栄え、戦国時代には南蛮貿易の拠点となった港町平戸。この町を語る上で欠かすことが出来ないのが、キリスト教の伝来と弾圧の歴史である。平戸にキリスト教（カトリック）が伝来したのは1550年のこと。西欧の船として初めてポルトガル船が

平戸に入港したのがきっかけだ。この知らせは、前年に鹿児島に上陸していたイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルのもとにも届く。思うように進まない鹿児島での布教を急ぎ取りやめ、すぐに平戸に入ったザビエルは領主の松浦隆信に丁寧に迎えられ、領内での布教を認められた。ザビエルが布教を許されたのは、ポルトガル国王の庇護下にあったイエズス会が布教の交換条件として、利

益の多いポルトガル船との南蛮貿易

の仲介役を申し出たため。これ以後、

平戸港には定期的なポルトガル船が寄港し始め、領内では宣教師による布教が盛んに行われた。

ところが、急速に増えていく信者を目の当たりにした隆信は、領主の力が及ばなくなることを恐れ、これまで布教に寛容だった態度を一変させる。豊臣秀吉が発した伴天連追放

令（1587年）

以降、キリシタン（キリスト教徒のこと）への

禁教政策が強まっていたこともあり、平戸でも

厳しい弾圧が行われた。宣教師や信者は捕らえられ、国外に追放されるか処刑

された。迫害を

恐れ、キリスト教を捨て仏教徒になる者もいたが、中には表向きは神仏を祀りながら密かにキリシタンの信仰を守る潜伏信者も生まれた。しかし、宣教師はことごとく国外に追放されてしまったため、キリスト教の教義は時間がつたにつれ希薄になっていった。その一方で、地元で殉教した者たちに対する崇敬の念が潜伏信者らの精神的なやりどころとなっていた。こうしてこの地に伝わったカトリックは、独特の信仰形態「かくれキリシタン信仰」へと変容していくのである。

かくれキリシタンの島

1873年に明治政府がキリシタン禁制の高札を撤廃すると、約250年ぶりにヨーロッパから神父が来日し、

カトリックの布教を始めた。各地の潜伏信者らは、カトリックへ改宗することを求める神父の言葉から、自分たちの信仰が再布教されたカトリックとかなり違っていることを知って戸惑う。

しかし、カトリックへの改宗はすなわち、先祖代々の信仰を捨てることを意味する。神父には異教の祭壇にしか見えない仏壇も、潜伏信者にとっては弾圧と殉教の苦難を乗り越えてきた先祖を祀る神聖なものだ。どうしてもこれを捨てるわけにはいかず、潜伏時代のかくれキリシタン信仰をそのまま続ける道を選んだ者も少なくない。かつては長崎県下の平戸、外海、五島地方にこうしたかくれキリシタンが暮らす集落が数多くあったが、今では平戸島の北西に浮かぶ生月島（平戸市）などに



田平天主堂は、1915年から3年の歳月をかけて信者らの手によって建設された

聖フランシスコ・ザビエル記念教会の尖塔と、光明寺や瑞雲寺の瓦屋根が連なる平戸を代表する風景



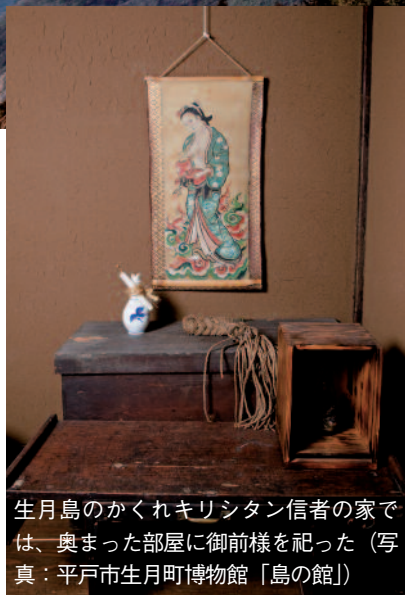


かくれキリシタンの信仰を伝承する生月島

いくつか残るのみとなってしまった。それにしても世界宗教史上類のないほどの長い歲月、宣教師なしで、しかも弾圧の手を逃れながら信仰を守り続けた人々の信仰心のあつきには敬服するばかりだ。

生月島では、御前様と呼ばれる聖画などからなる御神体を祀った。御前様は部屋奥の奥や納戸でこっそり祀られていたため「納戸神」とも呼ばれた。元は西洋風に描かれていたが、描き直すうちに日本風に変化したというから面白い。ちょんまげを結った聖人や、大きな丸髷を結ったマリアの絵もあるそう。

かくれキリシタンが今も唱え続けているのが「オラシヨ」。ラテン語だということも分からないまま子孫へ口伝えて伝えられた祈りの文句である。オラシヨを声に出して唱えることがそのまま神への祈りとなった。



生月島のかくれキリシタン信者の家では、奥まった部屋に御前様を祀った（写真：平戸市生月町博物館「島の館」）

かくれキリシタン信仰は一般に「日本に伝わった中世のキリシタン信仰が変容しながら今日に残されたもの」と定義されるが、最近の見方は少し違ふようだ。生月島のかくれキリシタン信仰に詳しい生月町博物館島の館の中園成生学芸員は次のように話す。

「現在のカトリックから見れば、確かにかくれキリシタンの信仰は一風変わって映るでしょう。しかしヨーロッパのカトリックも実はこの200年の間に宗教改革などを経て大きく変容しています。むしろ『かくれキリシタン』の方にこそ、中世の土着的なカトリックの形態が比較的原型に近い形で保存されていると言われています」

かつては1万人以上いた島の人口の8割がかくれキリシタン信者とされていた生月島だが、現在は7千人の人口の1割弱に過ぎない。島の基幹産業（遠洋漁業・港湾建設）の不振で後継者が島を出たことが大きな原因だ。若者の信仰に対する意識の低下も手伝って、信仰がなかなか継承出来ない厳しい時代を迎えている。

教会と大航海時代の面影が残る町

禁教令の廃止後、カトリックに改宗した人々の間では、聖堂建設の機運が高まった。平戸島と九州本土を隔てる平戸瀬戸を望む丘の上に建つ赤レンガ

の田平天主堂もそんな人々の思いが作り上げた教会だ。貧しい食料事情の中、信者は苦しい生活を強いられながら収入の3分の2を積み立ててこの教会建設のために使ったという。また、教会に使われているレンガや石段の石は、浜から2^{キロ}の急坂を登って信者らが運んだものだ。こうして1927年、多くの人々の思いが込められた天主堂が竣工した。設計・施工は、長崎を始め九州各地で数多くの教会建築に携わった鉄川与助によるもの。建物の中に入ると、コウモリ傘を広げたような木造アーチ式の天井と、絵のように美しいステンドグラスが印象的である。田平天主堂以外にも平戸市内には、個性豊かなカトリック教会が点在し、今も信

者たちの大切な祈りの場となっている。教会はいずれも明治以降に出来たものだが、かつての大航海時代の面影も町のそこかしこに残っている。例えばお菓子が良い例だ。カスドースは、ポルトガルとの交易によって伝えられた南蛮菓子の一つで、松浦家に伝わる江戸時代のお菓子の文献にも記録されている平戸が誇る銘菓だ。

「ポルトガルからカステラが入って来た時に、長い航海中の保



平戸城と、禁教時代をしのばせる瓦屋根の城下町

存食となる固くなったカステラの食べ方の一つとして平戸で紹介されたのではないかと考えられています」

とは、代々松浦家御用菓子司を務めたつたや総本家の松尾俊行。当時では贅沢な砂糖や卵がふんだんに使われており、明治に入るまで位の高い人しか食べることが許されなかった。カステラを切り分け、卵黄にくぐらせ、糖蜜に漬け、更にグラニュー糖をまぶして作る。材料を聞くと「甘過ぎるのは」と心配になるが、意外にさっぱり上品な甘さであった。

舶来のスイーツに、世界的な宗教、そして洋の東西を問わず珍しいものが流入する当時の平戸は、最初のポルトガル船の来航から、オランダ商館が島へ移るまでの約90年という短い間ではあったが、日本最先端の都市であったことは間違いない。

●郷土自慢・クラブ自慢

平戸ライオンズクラブの郷土自慢は、2011年9月20日に復元完成予定の洋風石造り倉庫「平戸オランダ商館」。1609年に設立され、長崎出島に移転



が命じられるまでの約32年間、海外貿易の拠点となった場所だ。1639年に完成した石造り倉庫は、

屋根に瓦を葺くなど日本建築の要素も取り入れてはいたが、国内初の洋風建築物であった。ところが、1637年に起きた島原の乱を機に、幕府は鎖国・禁教政策を一層強化。その影響を受け、倉庫にキリスト生誕にちなむ西暦年号が記されていたことを理由に、幕府は商館の建物をすべて破壊するよう命じた。図面などの資料が乏しく倉庫の復元は困難を極めたが、当時の商館長日記や会計帳簿が設計に役立ったそう。建物は2階建てで、航海時代の資料が展示される他、多目的スペースが設置され、観光情報の発信基地として機能することも期待されている。

▼平戸ライオンズクラブ（下部雅人会長／19人）11979年2月8日結成／スポンサー…佐世保西ライオンズクラブ

スクラッグス国際会長の「国際」

会長メッセージ」には、自分のことを考えるよりまず他人を思いやる気持ちに「ウィ・サーブ」の原点で、奉仕の心が世界を変える、という確信が込められていて、ライオンズ精神の本質であると思いをした。

静岡県・裾野ライオンズクラブ ●青木賢吾

支援される境遇になるとは思い
もしませんでした。今回の大震
災で迅速に支援金が送付された
知り、LCIFの意義を実感しま
した。そういった中で「THEM

「ライオン誌例会 開催ガイド」は通常例会のプログラムに取り入れたり、ライオン誌に関する特別例会を企画するなど具体的な活用法を提案しています。ライオン誌ウェブマガジン (www.thelion-mag.jp) でPDFファイルをダウンロードしてください。

「E・I・C・I・F」を支援される側から
の視点でも読み進めました。特に
ヴィルフス理事長のメッセージに
ある「私たちは誰よりも早く駆け
付け、最後までその場を去りませ
ん」の言葉に感銘を受け、私自
身もそうありたいと思いました。

LCIFスタディ・ツアー(T

HEMME・LCIF」のリポ
トは毎年拝見していますが、海外
への支援事業の大切さとすばらし
さを再確認出来ます。日本はLC
IFにたくさん拠出しているのに
国内への交付が少ないという理由
で、LCIFに否定的な意見をお
持ちの方も多いですが、学校に行
きたくない子どもが多い日本に比
べ、行きたくても行けない途上国
の子どもたちのために学校を建て
る事業の方がよほど意義がありま
す。日本の子どもたちに途上国の
現状を見せるスタディ・ツアーが
あってもいいと思いました。

「もう一度読みたい『あの記事』」

| | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 | 4 21 |
| 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 | 静岡県磐田 |
| 吉田 | 山田 | 山内 | 松家 | 堀内 | 飛田紗有李 | 中村 正夫 | 中村 薫 | 寺田 光良 | 寺田 克元 |
| 英司 | 史郎 | 盾夫 | 正和 | 豊 | | | | | 孝教 |

「損して徳をとれ」 守田俊郎（八代目坂東三津五郎／東京ライオンズクラブ）

ライオンズクラブの会員になつてから、何年過ぎたろう。京都ライオンズクラブのチャーター・ナイトに招待されて、そのまま会員になりました。年次大会（59年）の時は3日間、毎朝7時から11時まで、夕方7時から夜10時半まで駅に出迎えに出て、地方から京都に来る

がインドから帰ってこられたのを京都駅に出迎え、京都大学の平沢総長の部屋でインドの事情を聞き、アグラの土地をネール首相から贈られた話を聞いた時、我々の点じた小さな灯があまりに大きな結果になった驚きで、4、5日眠れませんでした。全国のライオン、宮崎博士も古いライオン

ら、私の考え方の根本はライオンズムなものです。周囲の者はすべて利害関係だけで処理しようとするのです。それが私には耐えられないのです。利害関係というものは、一方に利益があれば一方は損をするのです。

昔、私がライオンズの奉仕活動

をしているのを見た人が、「君、そんなことをして何か得をするのか」と聞きました。私も考えました。ライオンズクラブに入会して

人です。お互いの立場を尊重して、相手の利益も考えてあげたらどんなに良いでしょう。そのため、一時的に自分自身は不利益であっても、それが後に大きな徳になって帰ってくるのです。一時的な利益のみ考えて、一生の不利益の原因になることもあるのですが、近頃は得（トク）という言葉は誰でも知っています。徳（トク）という言葉を知りません。「徳は孤ならず」といっても分かってくれません。



です。日本のライオンズが世界中から称賛された事業なのです。アグラの病院は日本のライオンズの誇りです。

私はライオンズクラブ

戦後アメリカから入ったものはみんな悪いように言う人もありますが、ライオンズ精神は、非常に東洋的な「心」を持っています。それなればこそ、日本は世界第2のライオンズ国になったのです。

会員をタクシーまで誘導しました。当時は新幹線なんでもはないから、朝晩の急行列車だけでしたが、今なら大変です。10年余りの間に世の中はすっかり変わってしまいました。

京都大会の翌年、宮崎松記博士

ブに入ってから、いつの間にか人生観が変わったことに、最近になって気が付きました。と言うのは、家族の者を始めとして、私の周囲の人たちの考え方がどうしても、私と違ってくるのです。あまりに不思議なのでよくよく考えてみた

りして退会していきます。また、良き友も得られません。物質的にいくら損をしても、精神的な徳を得られることは計り知れません。世の中のこと何事によらず、利害関係しか考えられない人は不幸な

例会の時の合唱が空念仏にならぬように努めながら、幸福とは自分一人が求めるものではなく、世の中全体の幸福が自分自身の幸福につながるのだということを、これから私は周囲の者に分かってもらうように努力するつもりです。

読者プレゼント

■「カスドース」を讀者5人に

「ふるさと探訪」(49頁)で紹介した長崎県平戸市の銘菓「カスドース」(つたや総本家/オアシ松尾俊行)を、5人の



讀者にプレゼントします。南蛮交易の歴史を今に伝えるお菓子です。

応募要領: はがきに「カスドース」と明記し、住所、氏名、電話番号、クラブ名をご記入の上、ライオン誌プレゼント係あてにご応募ください。本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp/modules/inquiry/index.php?op=0)からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は6月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

次号予告

THEME
伝統文化を守り伝える

地域に伝わる伝統的な行事や文化を守ろうというライオンズの活動を紹介します。北海道・恵庭ライオンズクラブによる「恵庭市子どもかるた大会」、鳥取県・倉吉打吹ライオンズクラブの「くらよし打吹流しびな」

島根県・益田ライオンズクラブの「スーパー神楽選抜競演大会」、いずれも長く継続してきた三つのアクティビティを取材。

被災地のライオンズ

東日本大震災で甚大な被害を受けた332-B地区(岩手県)、332-C地区(宮城県)、332-D地区(福島県)内のライオンズの活動や、再建を図るクラブの状況などをレポートする。

地区ガバナー紹介

国内35地区の2011-12年度地区ガバナー就任予定者による次年度に向けた抱負、方針をプロフィールと共に紹介する。

ライオン誌広告料金表

| 区分 | 種別/スペース | 金額 |
|-----|-------------|----------|
| 表紙2 | …4色/1ページ | ¥600,000 |
| 表紙3 | …4色/1ページ | ¥500,000 |
| 表紙4 | …4色/1ページ | ¥700,000 |
| 記事 | …4色/1ページ | ¥480,000 |
| 記事 | …1色/1ページ | ¥270,000 |
| 記事 | …4色/3分の1ページ | ¥160,000 |
| 記事 | …1色/3分の1ページ | ¥110,000 |
| ハガキ | …1色/1葉 | ¥700,000 |

※年間契約: 年3回以上の出稿を条件に5~25%の割引制度があります

※会員割引: ライオンズクラブ会員は10%の特別割引があります(年間契約との併用可)

問い合わせ先: ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
電話: 03-3542-9571
ファクス: 03-3546-2630
Eメール: office@thelion.jp

築地通信

●地震当日、歩いて帰宅したが約4時間は長めの散歩程度だった。翌日から地下鉄の駅は薄暗くエスカレーターは止まったが不便はない。自宅の暖房を止めても厚着をすれば過ごせた。東京の23区内に住んでいるため計画停電もまぬがれた。苦勞の配分の少なさに役にも立たない罪悪感を感じた。商品のないスーパーの棚を見て浅ましいと思った。被災地産の野菜を選んで買った。温かいご飯、布団に感謝した。あれから日常茶飯事が一つひとつ意識される。(やなせ)

●東日本大震災の影響でライオン誌をお届け出来ない地域があります。5月号は震災関連の記事も多く、被災地へもいち早く情報をお届けしたいところなのですが、配送ルートはいまだ不安定で、東京から被災地への発送引き受けが開始された地域でも返送されてくることが多い現状です。1日でも早く皆様のお手元にライオン誌をお届けしたいと思います。(よしだ)

●訂正とお詫び

5月号24頁「訃報」のオノ齊藤寅藏は正しくは94年度332-B地区ガバナーでした。

また26頁「ピックアップ」で取り上げた若手フォーラムの記事に330複合地区後援の記載が漏れていました。

関係各位にお詫び申し上げます。



Published by authority of the Board of Directors in 21 languages - English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indonesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS

President Sid L. Scruggs III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina, 28394, USA; Immediate Past President Eberhard J. Wirfs, Am Munsterer Wald 11, 65779 Kelkheim, Germany; First Vice President Dr. Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; Second Vice President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA.

DORECTPRS

Second year directors

Luis Dominguez, Mijas Pueblo, Spain; Gary B. D'Orazio, Idaho, United States; Yasumasa Furo, Dazaifu, Japan; K. P. A. Haroon, Cochin, India; Carlos A. Ibañez, Panama City, Panama; Ronald S. Johnson, Maine, United States; Byeong-Deok Kim, Seoul, Republic of Korea; Horst P. Kirchgatterer, Wels/Thalheim, Austria; Hamed Olugbenga Babajide Lawal, Ikorodu, Nigeria; Daniel A. O'Reilly, Illinois, United States; Richard Sawyer, Arizona, United States; Anne K. Smarsh, Kansas, United States; Jerry Smith, Ohio, United States; Michael S. So, Makati, Philippines; Haynes H. Townsend, Georgia, United States; Joseph Young, Ontario, Canada.

First year directors

Yamandu P. Acosta, Alabama, United States; Douglas X. Alexander, New York, United States; Dr. Gary A. Anderson, Michigan, United States; Narendra Bhandari, Pune, India; Janez Bohorič, Kranj, Slovenia; James Cavallaro, Pennsylvania, United States; Ta-Lung Chiang, Taichung, MD 300 Taiwan; Per K. Christensen, Aalborg, Denmark; Edison Karnopp, Santa Cruz do Sul, Brazil; Sang-Do Lee, Daejeon, Korea; Sonja Pulley, Oregon, United States; Krishna Reddy, Bangalore, India; Robert G. Smith, California, United States; Eugene M. Spiess, South Carolina, United States; Eddy Widjanarko, Surabaya, Indonesia; Seiki Yamaura, Tokyo, Japan; Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL. (630)571-5466 FAX. (630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会

国際理事 不老安正
国際理事 山浦晟暉
委員長 秋山詔樹 (330複合地区)
編集長 小田邦雄 (336複合地区)
委員 後藤 忍 (331複合地区)
委員 種市一二 (332複合地区)
委員 林 静誠 (333複合地区)
委員 砂田繁雄 (334複合地区)
委員 竹本實生 (335複合地区)
委員 澁田繁晴 (337複合地区)

ライオン誌日本語版事務所

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL. (03)3542-9571 (代) FAX. (03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

「絆」で日本再生を

3月11日午後2時46分、目を疑い、耳を疑う大惨事が発生した。東日本大震災である。4県42市町村の沿岸部が被害を受けた。津波は東京電力福島第1原子力発電所を破壊し、放射性物質の拡散を招いた。いわゆる三大惨事である。1カ月経過した時点で、死者1万2915人、行方不明者1万4



ライオン誌
日本語版編集長

●
小田邦雄
(岡山西)

921人。この中には、我々の友であるライオンズ・メンバーとその家族が含まれていることは悲しい事実である。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意をささげ、また被災された方々に心からお見舞いを申し上げますと共に、1日も早い健康の回復と復興、復旧を祈っている。この大災害は、日本ライオンズにも大変革をもたらすものと思う。奉仕の在り方にも大きな変化があるだろう。ニューヨークにおける9・11事件でアメリカが変わったように、日本もまた変わっていく。

「東日本」抜きでは、産業も経済も文化も成り立たない。「がんばろう、日本ライオンズ。応援しよう、東日本」と声を大に叫びたい。本年度編集長を拝命し、年度末に当欄の原稿を書く時は、皆様にお礼と、粛々と無事に業務を遂行し、改革を成した喜びを書きたかった。しかし、予想もしない大惨事にライオン誌の編集にも戸惑いがあった。3月8日の編集会議を経たばかりの誌面の変更と被災地域への配送の困難をどうするか。委員会と所長以下、職員の奮闘に感謝したい。

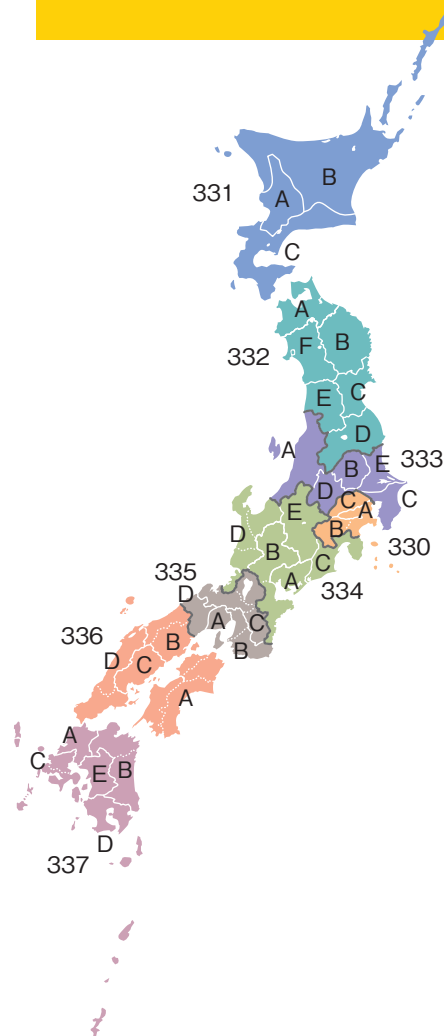
4月11日、震災からちょうど1カ月の日に奇しくも編集会議が開催された。被災された332複合地区の種市一二委員の元気なお顔を拝見出来たことが、編集長在任中いちばんうれしかったことである。4月9日、福島県いわき市のニュースでは大震災を耐え抜いたソメイヨシノが開花し、「復興への希望の桜が咲いた」と報じられた。自粛もそこそこ、思いやりの気持ちを持ちながら、平素の形に戻す。明るさもまた必要である。戦後の目覚ましい復興に改めて思いを馳せたい。

日本のライオンズ

2011.4.30 eMMR ServannA報告による

| 地区 | 都道府県 | クラブ数 | 会員数 | 男性会員 | 女性会員 | 会員数増減 |
|-----------|-------------|-------|---------|--------|--------|-------|
| 330-A | 東京 | 200 | 5,124 | 4,443 | 681 | -5 |
| 330-B | 神奈川・山梨・東京 | 181 | 5,098 | 4,513 | 585 | 24 |
| 330-C | 埼玉 | 101 | 2,597 | 2,289 | 308 | -49 |
| 330 | 計 | 482 | 12,819 | 11,245 | 1,574 | -30 |
| 331-A | 北海道(道央) | 75 | 2,518 | 2,348 | 170 | -47 |
| 331-B | 北海道(道北・道東) | 92 | 2,594 | 2,478 | 116 | 53 |
| 331-C | 北海道(道南) | 56 | 1,887 | 1,696 | 191 | 69 |
| 331 | 計 | 223 | 6,999 | 6,522 | 477 | 75 |
| 332-A | 青森 | 66 | 1,784 | 1,636 | 148 | 25 |
| 332-B | 岩手 | 55 | 2,273 | 1,593 | 680 | 136 |
| 332-C | 宮城 | 77 | 1,515 | 1,316 | 199 | 91 |
| 332-D | 福島 | 77 | 2,046 | 1,843 | 203 | 50 |
| 332-E | 山形 | 58 | 1,854 | 1,664 | 190 | 7 |
| 332-F | 秋田 | 51 | 1,312 | 1,090 | 222 | -6 |
| 332 | 計 | 384 | 10,784 | 9,142 | 1,642 | 303 |
| 333-A | 新潟 | 77 | 2,947 | 2,625 | 322 | 149 |
| 333-B | 栃木 | 58 | 1,675 | 1,207 | 468 | 86 |
| 333-C | 千葉 | 138 | 3,639 | 3,028 | 611 | 131 |
| 333-D | 群馬 | 53 | 2,165 | 1,760 | 405 | 109 |
| 333-E | 茨城 | 80 | 2,922 | 2,611 | 311 | 36 |
| 333 | 計 | 406 | 13,348 | 11,231 | 2,117 | 511 |
| 334-A | 愛知 | 123 | 5,471 | 4,931 | 540 | 135 |
| 334-B | 岐阜・三重 | 83 | 3,684 | 3,369 | 315 | 1 |
| 334-C | 静岡 | 84 | 3,243 | 3,126 | 117 | 46 |
| 334-D | 富山・石川・福井 | 98 | 4,032 | 3,780 | 252 | 58 |
| 334-E | 長野 | 53 | 2,107 | 1,923 | 184 | 44 |
| 334 | 計 | 441 | 18,537 | 17,129 | 1,408 | 284 |
| 335-A | 兵庫(東) | 100 | 2,529 | 2,176 | 353 | -21 |
| 335-B | 大阪・和歌山 | 194 | 5,977 | 5,298 | 679 | 86 |
| 335-C | 滋賀・京都・奈良 | 121 | 4,075 | 3,760 | 315 | 51 |
| 335-D | 兵庫(西) | 68 | 2,097 | 1,883 | 214 | -7 |
| 335 | 計 | 483 | 14,678 | 13,117 | 1,561 | 109 |
| 336-A | 徳島・高知・香川・愛媛 | 152 | 5,803 | 5,152 | 651 | 88 |
| 336-B | 鳥取・岡山 | 96 | 3,142 | 2,877 | 285 | -16 |
| 336-C | 広島 | 102 | 3,604 | 3,408 | 196 | 17 |
| 336-D | 島根・山口 | 102 | 3,355 | 3,119 | 236 | 105 |
| 336 | 計 | 452 | 15,904 | 14,556 | 1,368 | 194 |
| 337-A | 福岡・長崎 | 117 | 4,600 | 4,075 | 525 | 132 |
| 337-B | 大分・宮崎 | 75 | 2,377 | 2,220 | 157 | 58 |
| 337-C | 佐賀・長崎 | 84 | 3,121 | 2,652 | 469 | 146 |
| 337-D | 鹿児島・沖縄 | 81 | 2,472 | 2,256 | 216 | 15 |
| 337-E | 熊本 | 56 | 1,608 | 1,465 | 143 | -1 |
| 337 | 計 | 413 | 14,178 | 12,668 | 1,510 | 350 |
| 総計 | | 3,284 | 107,247 | 95,610 | 11,657 | 1,796 |
| 世界のライオンズの | | 7.1% | 7.9% | | | |

日本 ライオンズ クラブ 分布図



世界のライオンズ

2011.4.30 国際協会集計

ライオンズ国または領域 206
世界のクラブ数 46,216
世界の会員数 1,364,647
期首からの増減 25,705

| 国 | クラブ数 | 会員数 | 期首からの増減 |
|------|--------|---------|---------|
| アメリカ | 12,527 | 362,036 | -7,106 |
| インド | 5,953 | 210,398 | 15,291 |
| 韓国 | 2,103 | 87,563 | 4,279 |

AD

われわれは心を配る
われわれは奉仕する
われわれは成し遂げる



SAVE JAPAN

日本のために行動する

これまで他国での災害発生時に、
真っ先に応えてくれたのが**日本のライオンズ**でした。

彼らが困っている今こそ、
世界のライオンズが心を一つにして、
支援の手を差し伸べるべきです。

LCIF理事長 エバハルト・J・ヴィルフス



Lions Clubs International
FOUNDATION